

令和5年度

体力・運動能力調査報告書

山形県教育委員会

令和6年3月



## ま え が き

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果につきまして、スポーツ庁は、全国的な傾向として「体力合計点について、回復基調であるが、コロナ以前の水準には至っていない」と分析しております。

本県においては、体力合計点は、13年ぶりに全ての調査対象、小学校5年生男女・中学校2年生男女で全国平均を上回り、過年度との比較でも回復傾向が見られております。全国と比較すれば、順調な体力回復と言えますが、本県もコロナ以前の水準には至っておらず、楽観視できない状況と捉えております。

県教育委員会では、「山形県スポーツ推進計画〈後期改定計画〉」において、子ども（小学生）の1週間の総運動時間420分以上の生徒の割合が60%以上、運動・スポーツが嫌いという生徒（中学生）の割合が10%以下という目標を掲げております。幼少期の運動習慣が成人になってからの生活習慣に大きく影響すること、体育の授業だけでは体力向上に必要な運動量を確保することが難しいことなどから、「運動の楽しさ」の実感を通して、「運動が好き」という子どもたちを増やし、生涯にわたって日常から運動に親しむことができるよう、授業改善や体力の向上に係る事業を展開してまいりました。

2月には体力向上対策会議を開催し、有識者による分析を踏まえて、各学校の担当者に具体的な方策について熱心に議論いただきました。本資料では、これらの一連の取り組みを経て、成果と課題及び今後の対策についてまとめており、実態に応じた体育学習の改善と「1学校1取組み」の充実のために、各学校においても有効に活用いただけるものと期待しております。

結びに、本調査に御協力いただきました各学校の皆様、分析いただきました体力向上推進委員の皆様にご心から感謝を申し上げます。

令和6年3月

山形県教育局スポーツ保健課  
課長 村上 周市



# 目次

## I 総括

- 1 結果のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1  
    (1) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果  
    (2) 山形県体力・運動能力調査結果  
    (3) 体力の推移
- 2 児童生徒の体力向上対策会議  
    (1) 県教育委員会説明（県の状況、他県比較、体力向上推進委員会指摘等）・・・・・・2  
    (2) アイスブレイク・グループ協議・・・・・・・・・・・・・・・・31
- 3 県教育委員会の今後の取組みについて・・・・・・・・・・・・36
- 4 令和6年度児童生徒の体力向上対策・・・・・・・・・・・・37

## II 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣調査等

- 1 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
- 2 山形県の結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40  
    (1) 全国平均との比較  
    (2) 山形県の過去の記録との比較  
    (3) 山形県の傾向
- 3 山形県の実技に関する調査の結果  
    (1) 山形県平均値と全国平均値との比較・・・・・・・・47  
    (2) 児童生徒質問紙調査の結果・・・・・・・・・・・・52  
    (3) 学校質問紙のまとめ・・・・・・・・・・・・・・53
- 4 全国の調査結果の概要（スポーツ庁分析）・・・・・・54

### Ⅲ 山形県体力・運動能力調査

1 調査の概要	67
(1) 令和5年度体力・運動能力調査実施要項	
(2) 調査対象学校数・児童生徒数	
2 調査結果の概要	
(1) 各年齢の項目別状況と総合評価	
①小学校	68
②高等学校・中学校	70
③目標値とR5県平均値グラフ	72
④総合評価一覧	76
⑤総合評価における10年間の推移	78
(2) 加齢に伴う各項目別変化	79
(3) 小学校の結果	84
(4) 中学校の結果	85
(5) 高等学校の結果	86
①高等学校のまとめ	
②新体力テスト後の推移	

### Ⅳ 参考資料

1 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の他県比較	89
2 山形県体力・運動能力調査	
(1) アンケートの結果	117
(2) 令和5年度新体力テスト結果一覧	122
(3) 各教育事務所別体力・運動能力調査結果	125
(4) 追跡調査分析（コロナ禍の体力向上への影響）	129
3 握力・50m走・ボール投げにおける30年間の推移（10歳・13歳・16歳）	133
4 「体力向上対策会議」事後アンケートの結果	136
5 「1学校1取組み」の実践紹介	138



# I 総括

## 1 結果のまとめ

(1) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

(2) 山形県体力・運動能力調査結果

(3) 体力の推移

## 2 令和5年度児童生徒の体力向上対策会議

(1) 県教育委員会説明

(県の現状、他県比較、体力向上推進委員会での指摘等)

(2) アイスブレイク・グループ協議

## 3 今後の県教育委員会の取組みについて

## 4 令和6年度児童生徒の体力向上対策





# 1 結果のまとめ

## (1) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

表1 令和5年度 本県児童生徒の種目別結果と体力合計点の全国平均比較

(○：全国平均を上回った24/34、▼：全国平均を下回った、＝：全国平均と同値)

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	全国 平均超 合計	体力合計点 (点)		
		握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	持久 走	20m シャトル	50m走	立ち幅 とび	ボール 投げ		山形県	全国	全国差
小学校 5年生	男子	○	○	▼	○	/	○	▼	○	○	6	52.92	52.60	+0.32
	女子	○	○	▼	○		○	▼	○	○	6	55.70	54.29	+1.41
中学校 2年生	男子	○	▼	○	▼	○	○	○	○	○	7	41.63	41.18	+0.45
	女子	○	▼	○	▼	○	○	▼	▼	○	5	47.32	47.08	+0.24
全国平均超合計		4	2	2	2	2	4	1	3	4	24			

○小学生のスポーツ実施率（1日60分以上） 39.4% (R04 41.1%) ⇒ 60%※

○スポーツや運動が「嫌い」「やや嫌い」である中学生

15.8% (R04 15.8%) ⇒ 10%以下※

\*山形県スポーツ推進計画数値目標<後期改定計画>

## (2) 山形県体力・運動能力調査結果

《総合評価》

○中学校女子の1、2学年及び高校男子の2、3学年が、総合評価Bであった。

○その他は総合評価Cであった。

《項目別得点による分析》

○小・中・高等学校男女とも、「上体起こし」「反復横跳び」は良好な項目であった。

○課題となる項目は下表のとおりである。

小学校 低学年 男子	握力・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ
小学校 低学年 女子	握力・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ
小学校 中学年 男子	なし
小学校 中学年 女子	20mシャトルラン
小学校 高学年 男子	握力・長座体前屈・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ
小学校 高学年 女子	50m走・立ち幅跳び
中学校 男子	握力・立ち幅跳び・ボール投げ※1年のみ
中学校 女子	握力※1年のみ、ボール投げ※1、3年のみ
高校 男子	握力・立ち幅跳び・ボール投げ※1年のみ
高校 女子	握力・ボール投げ※1年のみ

○1週間のうち、全く運動をしない児童生徒の割合 11.3% (R04 11.1%)

## (3) 体力の推移

○児童生徒の体力は回復傾向であるが、新型コロナウイルス感染症流行以前の水準には至っていない。

・小学校において、男女で昨年からの回復傾向は継続している。

・中学校において、男子で回復の兆しが見え始めたが、女子は横ばいである。

・高等学校において、男女とも横ばいである。

○種目別の推移では、ほとんどの種目が回復傾向である。

## 2 令和5年度児童生徒の体力向上対策会議

日時：村山 令和6年2月13日（火）14:00～16:45  
最上・置賜・庄内 令和6年2月15日（木）14:00～16:45

会場：オンライン

内容：

- ・ 開会行事（県教育委員会あいさつ）
- ・ アイスブレイク（グループごと）  
テーマ「アフターコロナの子どもたちの様子」
- ・ 県教育委員会説明
- ・ 地区教育事務所説明
- ・ グループ協議・全体共有  
テーマ「より多くの生徒にとって、体育授業・体育的行事が楽しくなる工夫」
- ・ 閉会行事

### （1） 県教育委員会説明

## 令和5年度全国体力・運動能力、 運動習慣等調査の概要

### 小5・中2を対象にした全国悉皆調査

### 本県の調査実施校数及び児童生徒数

	学校数（校）	児童生徒数（人）			備考
		男子	女子	合計	
小5	221	3,958	3,783	7,741	特別支援学校含む
中2	96	3,994	3,729	7,723	特別支援学校含む

1

# 調査結果の概要

## 全ての調査対象で全国平均超

### 体力合計点

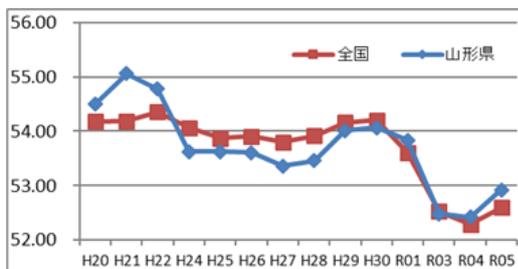
		山形県	全 国	全国差
小5	男子	<b>52.92 点</b>	52.60 点	<b>+0.32点</b>
	女子	<b>55.70 点</b>	54.29 点	<b>+1.41点</b>
中2	男子	<b>41.63 点</b>	41.18 点	<b>+0.45点</b>
	女子	<b>47.32 点</b>	47.08 点	<b>+0.24点</b>

2

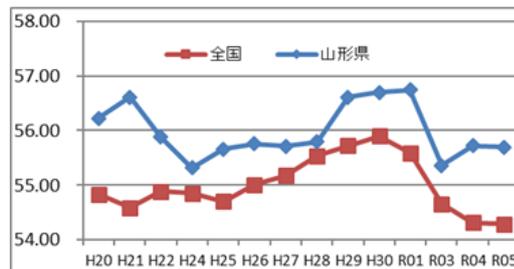
## 小5男子、中2男女 前年度を上回り

小5女子はほぼ横ばいであるが、全国平均を大きく上回っている

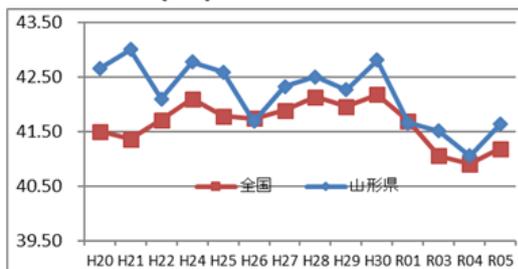
### ● 小5男子(点)



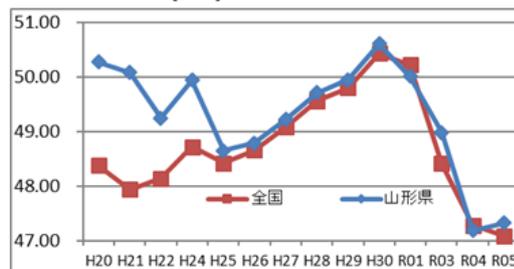
### ● 小5女子(点)



### ● 中2男子(点)



### ● 中2女子(点)



小学校・中学校ともに回復傾向

# 本県児童生徒の種目別結果

		握力	上体起 こし	長座体 前屈	反復横 とび	持久走	20m シャトル ラン	50m 走	立ち幅 とび	ボール 投げ	全国 平均超 合計
小学校 5年生	男子	○	○	▼	○		○	▼	○	○	6
	女子	○	○	▼	○		○	▼	○	○	6
中学校 2年生	男子	○	▼	○	▼	○	○	○	○	○	7
	女子	○	▼	○	▼	○	○	▼	▼	○	5
全国平均超合計		4	2	2	2	2	4	1	3	4	24

○全国平均を上回った ▼全国平均下回った =全国平均と同値

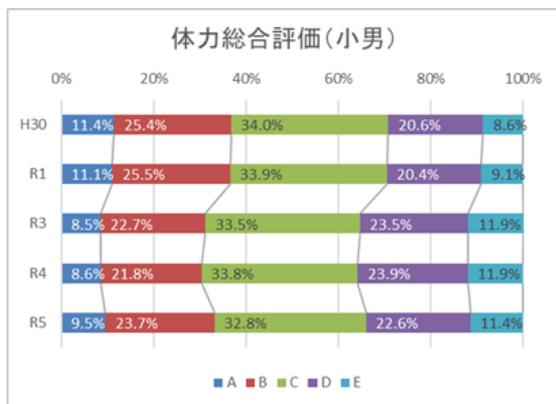
## 昨年度と大きな変化なし

中2男子は50m走・立幅跳びが向上

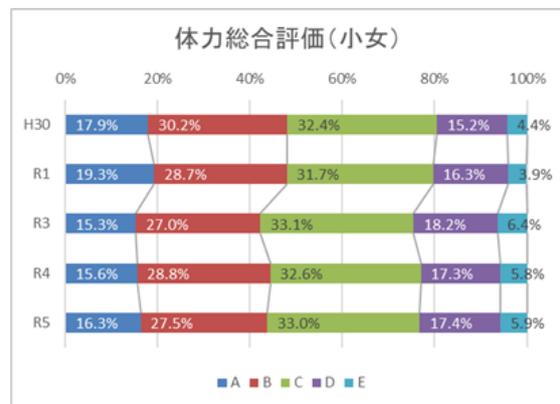
## 本県の傾向（児童生徒・学校質問紙調査結果より）

### （1）小学校の傾向

#### ①体力総合評価の状況



小5男子は上位層が増加

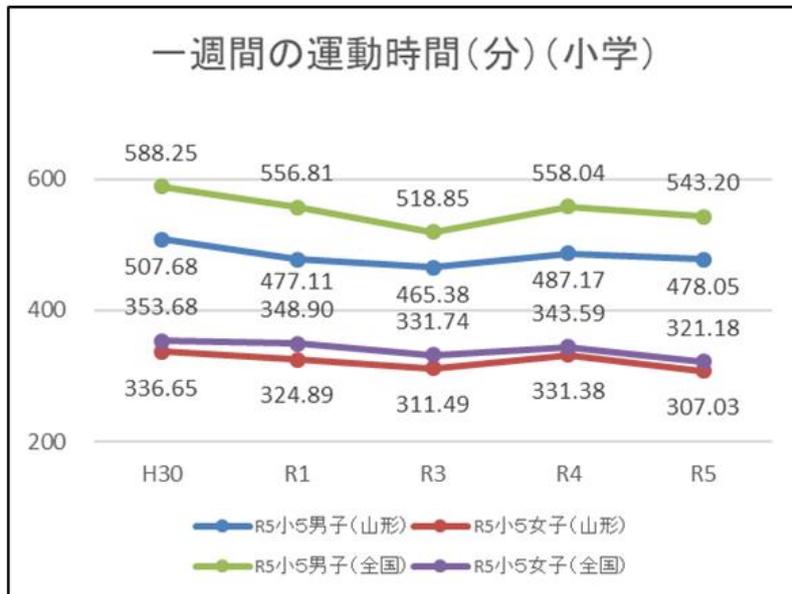


小5女子はほぼ変化なし

# 本県の傾向（児童生徒・学校質問紙調査結果より）

## （１）小学校の傾向

### ②運動時間（体育の授業時間を除く）の減少



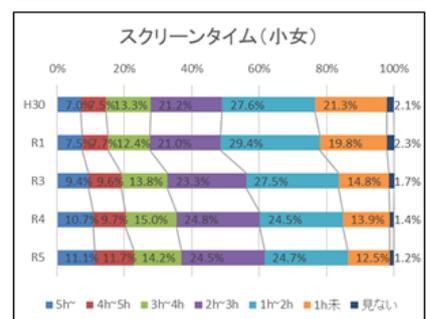
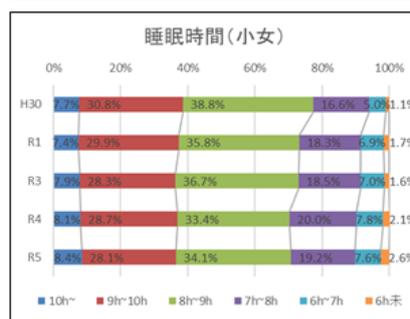
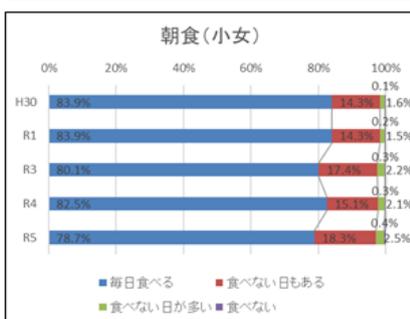
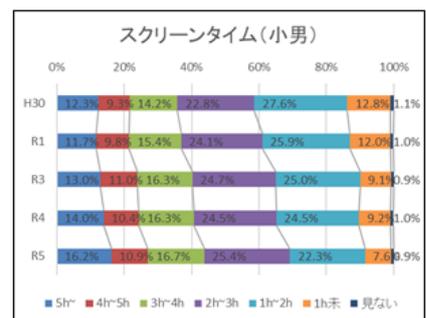
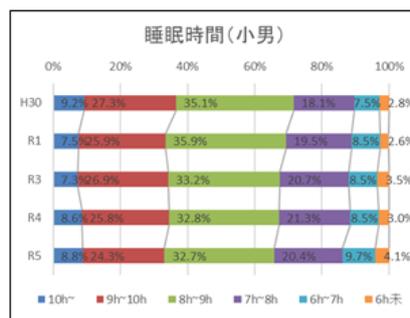
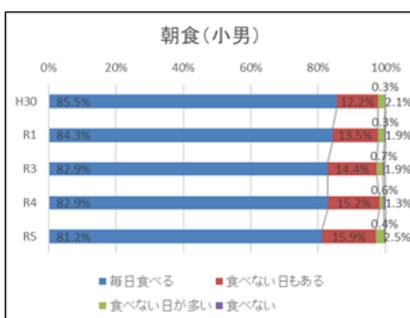
小5男女とも減少、全国平均以下。

6

# 本県の傾向（児童生徒・学校質問紙調査結果より）

## （１）小学校の傾向

### ③朝食欠食↑、睡眠時間↓、スクリーンタイム↑

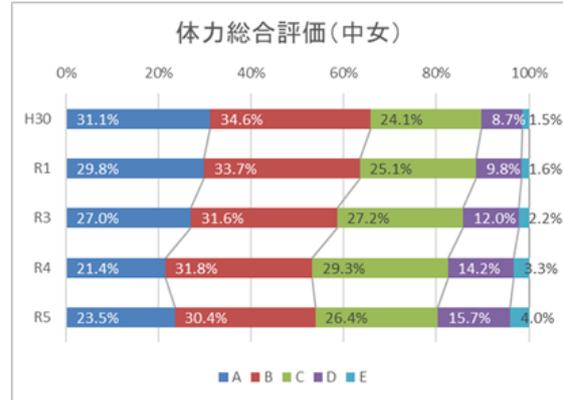
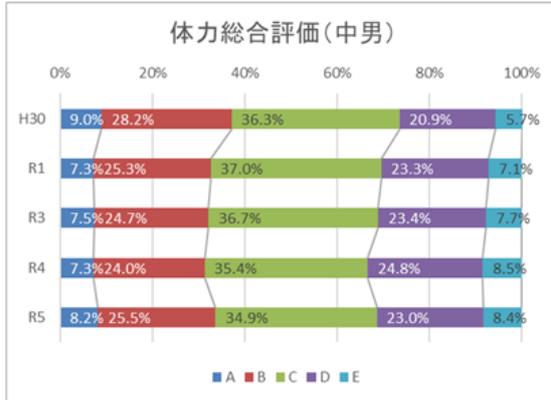


7

# 本県の傾向（児童生徒・学校質問紙調査結果より）

## （２）中学校の傾向

### ①体力総合評価の状況



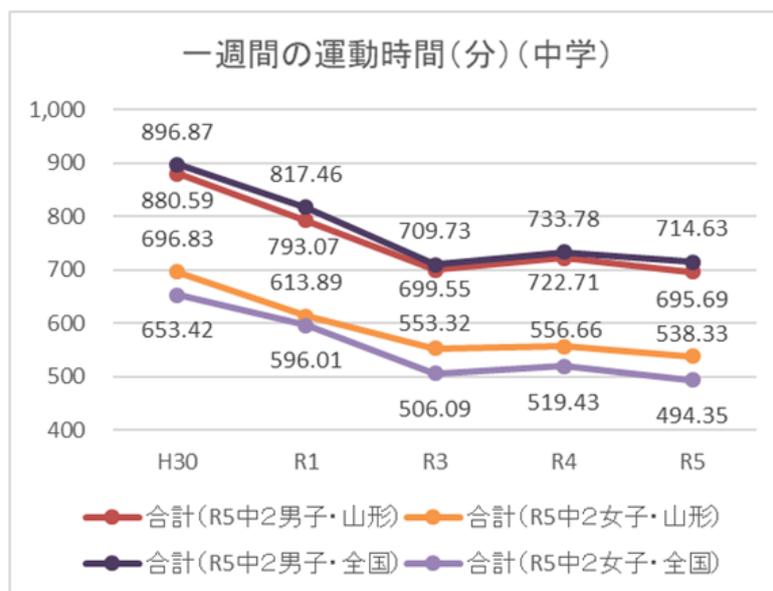
中2男子は上位層が増加

中2女子は二極化

# 本県の傾向（児童生徒・学校質問紙調査結果より）

## （２）中学校の傾向

### ②運動時間（体育の授業時間を除く）の減少

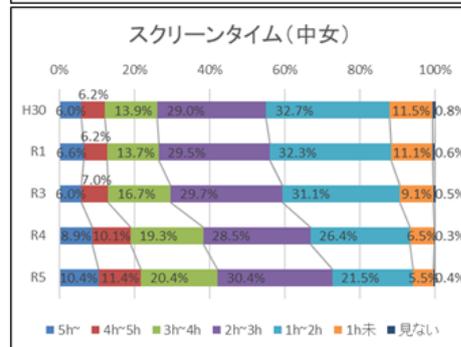
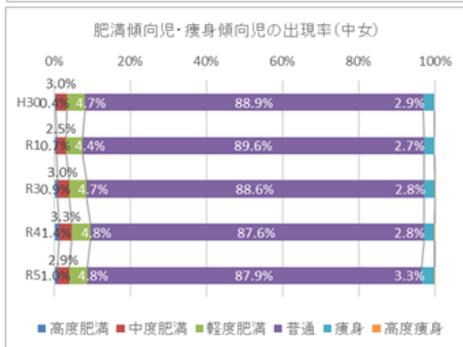
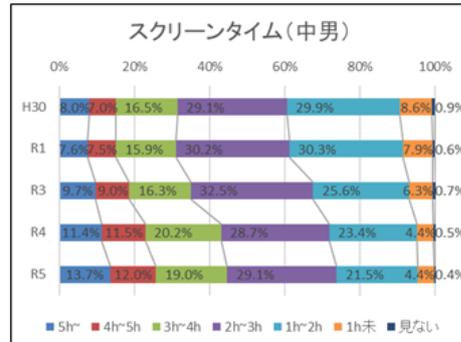
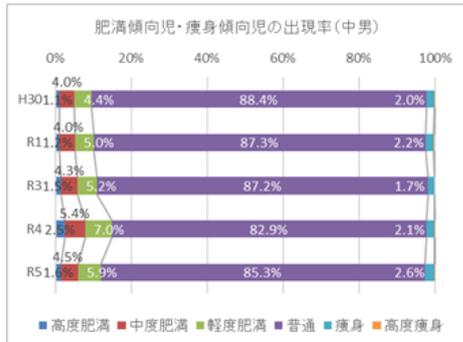


中2男女とも減少。中2男子は全国平均以下。

# 本県の傾向（児童生徒・学校質問紙調査結果より）

## （２）中学校の傾向

### ③肥満男子↓、スクリーンタイム↑

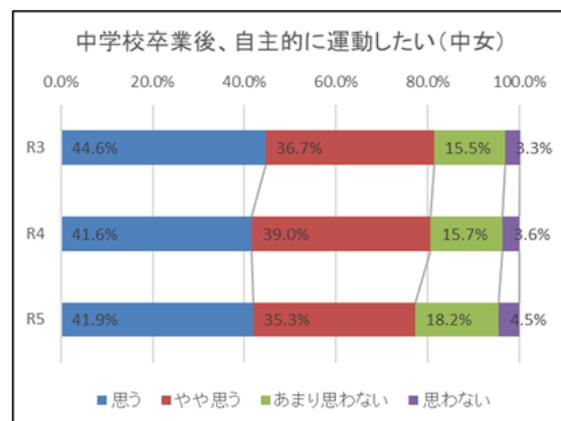
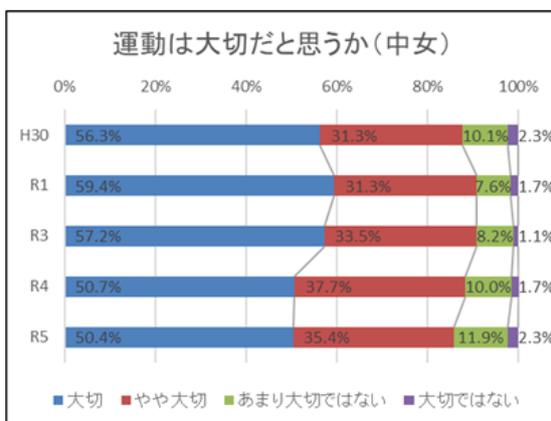


10

# 本県の傾向（児童生徒・学校質問紙調査結果より）

## （２）中学校の傾向

### ④中2女子の運動に対する意識の低下



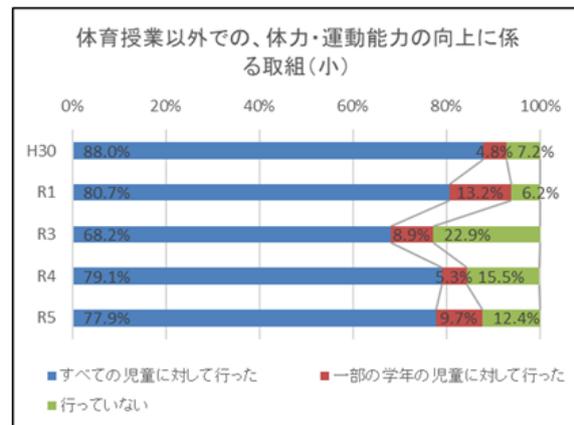
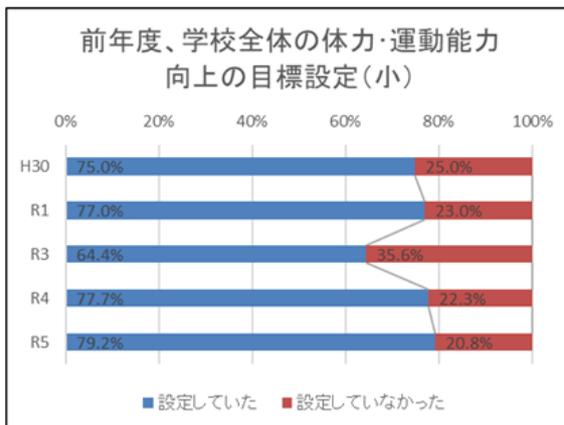
11

## 本県の体力回復の要因

- (1) 昨年度の提言のとおり、各校に目の前の子どもたちの様子から、必要な取組みを企画・実施していただけた。
- (2) 全国学校体育研究大会山形大会の研究実践が波及

12

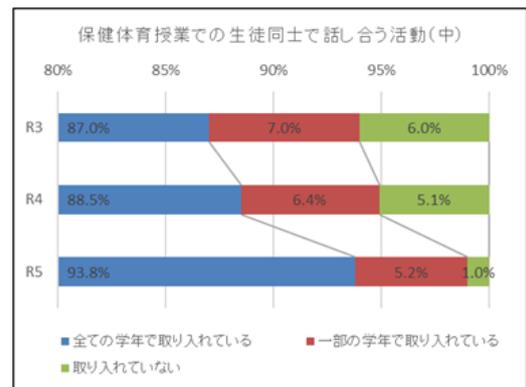
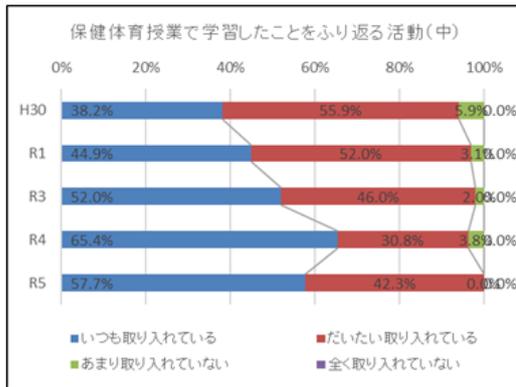
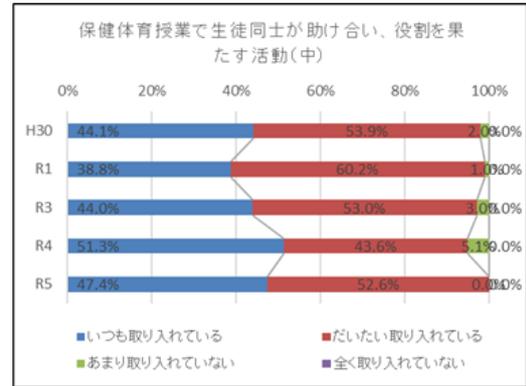
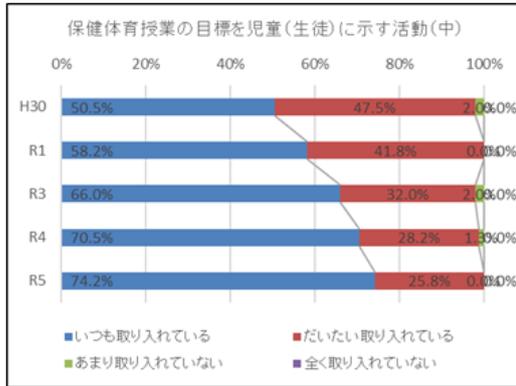
## 本県の体力回復の要因 ・小学校について



13

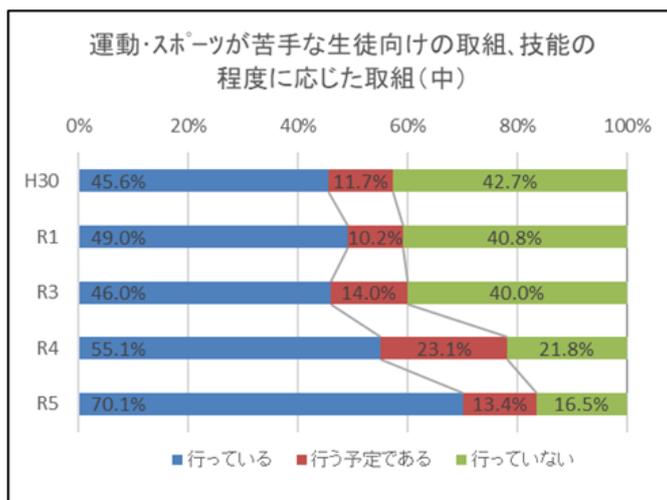
# 本県の体力回復の要因

## ・中学校について



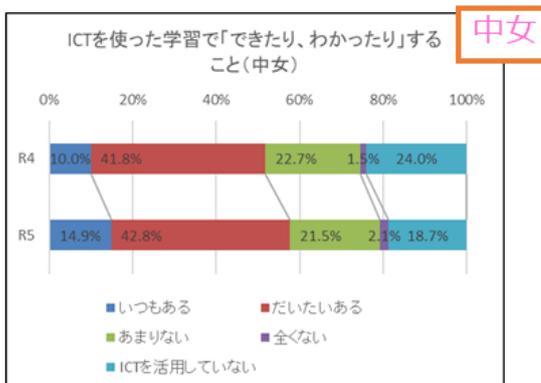
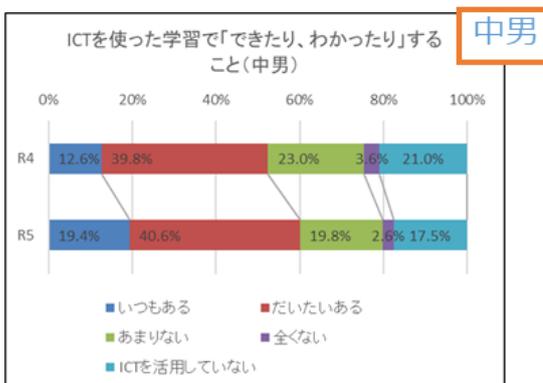
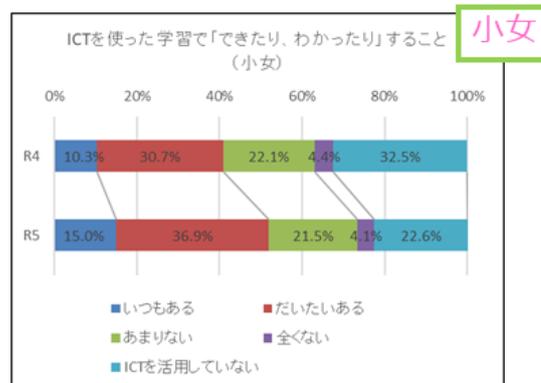
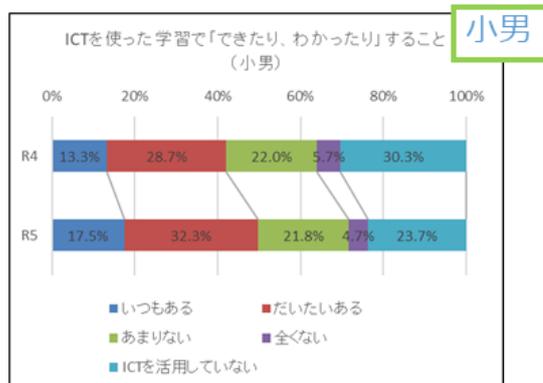
# 本県の体力回復の要因

## ・中学校について



# 本県の体力回復の要因

## ・ ICTの活用について



## 本県の課題

### (1) 児童生徒の運動時間の減少

- 全ての対象で、運動時間が減少しており、コロナ禍が明けても自然な回復は見られない。

### (2) 児童生徒の生活習慣の変化

- 全ての対象で、生活習慣が変化している (朝食欠食増加、睡眠時間減少、スクリーンタイム増加)。

# 山形県体力・運動能力調査の概要

## 全学年を対象にした山形県悉皆調査

### 調査対象学校数・児童生徒数

	学校数	調査人数
小学校	225	32,146人(68.3%) 【男子 16,318人 女子 15,828人】
中学校	96	17,478人(67.7%) 【男子 8,984人 女子 8,494人】
高校	45	12,962人(80.1%) 【男子 6,294人 女子 6,668人】

18

## 山形県児童生徒の体力向上に向けた数値目標の設定について

総合評価基準表

段階	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	段階
A	39以上	47以上	53以上	59以上	65以上	71以上	A
B	33~38	41~46	46~52	52~58	58~64	63~70	B
C	27~32	34~40	39~45	45~51	50~57	55~62	C
D	22~26	27~33	32~38	38~44	42~49	46~54	D
E	21以下	26以下	31以下	37以下	41以下	45以下	E

総合評価基準表

段階	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	段階
A	51以上	57以上	60以上	61以上	63以上	65以上	65以上	65以上	A
B	41~50	47~56	51~59	52~60	53~62	54~64	54~64	54~64	B
C	32~40	37~46	41~50	41~51	42~52	43~53	43~53	43~53	C
D	22~31	27~36	31~40	31~40	31~41	31~42	31~42	31~42	D
E	21以下	26以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	30以下	E

19

# 山形県体力・運動能力調査

## 調査結果の概要

目標値：総合評価Bの最低点（各年齢別）を項目数（8：握力～ボール投げ）で割った得点

- ：総合評価Bの最低点（各年齢別）を項目数（8：握力～ボール投げ）で割った得点以上の項目
- \*：総合評価Bの最低点（各年齢別）を項目数（8：握力～ボール投げ）で割った得点と同程度の項目
- ：総合評価Bの最低点（各年齢別）を項目数（8：握力～ボール投げ）で割った得点から1点以上下回った項目

	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
目標得点	33	41	46	52	58	63
各項目の目標得点	4.13	5.13	5.75	6.50	7.25	7.88

	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
目標得点	41	47	51	52	53	54
各項目の目標得点	5.13	5.88	6.38	6.50	6.63	6.75

20

## 調査結果の概要（小学校男子）

**良好：反・20m**

**課題：握・50m・立・ボ**

歳		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	合計点 (点)
6	R05県値	* 9.18	○ 12.08	* 26.51	* 27.79	* 19.19	● 11.77	● 114.98	● 8.74	30.92
	得点	↑ 4	↑ 5	4	↑ 4	4	↑ 3	↑ 3	↑ 3	↑ C
7	R05県値	● 10.73	* 14.46	* 28.02	* 31.71	* 28.84	● 10.92	● 126.74	● 11.89	37.63
	得点	4	↑ 5	↑ 5	5	↑ 5	↑ 4	↑ 4	↑ 4	↑ C
8	R05県値	* 12.68	* 16.38	* 29.79	○ 35.61	○ 37.33	* 10.36	* 136.19	* 15.37	43.64
	得点	↑ 5	↑ 5	5	↑ 6	↑ 6	↑ 5	↑ 5	↑ 5	↑ C
9	R05県値	* 14.41	* 17.73	* 31.37	○ 39.19	* 42.28	* 9.97	* 143.72	* 18.17	48.21
	得点	6	↑ 6	↑ 6	↑ 7	↑ 6	↑ 6	↑ 6	↑ 6	↑ C
10	R05県値	● 16.51	* 19.31	● 33.96	○ 42.09	* 49.13	● 9.62	● 151.86	● 21.44	53.08
	得点	↑ 6	↑ 7	↑ 6	↑ 8	↑ 7	↑ 6	↑ 6	↑ 6	↑ C
11	R05県値	* 19.42	○ 21.06	* 35.13	○ 45.09	○ 57.33	* 9.25	* 162.85	* 24.45	58.33
	得点	7	↑ 8	↑ 7	↑ 8	↑ 8	↑ 7	↑ 7	7	↑ C

21

## 調査結果の概要（小学校女子）

良好：上・反

課題：握・50m・立・ボ

歳		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	合計点 (点)
6	R05県値	● 8.53	* 11.75	* 28.91	* 27.20	* 16.48	● 12.01	● 108.24	● 5.83	31.26
	得点	↑ 3	↑ 4	↑ 4	↑ 4	4	↑ 3	↑ 3	3	↑ C
7	R05県値	● 9.97	* 13.91	* 30.47	* 30.58	* 23.16	● 11.20	● 119.06	● 7.75	38.04
	得点	4	↑ 5	5	5	↑ 5	↑ 4	↑ 4	↑ 4	↑ C
8	R05県値	* 11.90	● 15.59	* 32.94	● 34.33	● 28.82	* 10.62	* 128.76	* 9.90	44.37
	得点	↑ 5	↑ 6	5	↑ 6	↑ 6	↑ 5	↑ 5	↑ 5	↑ C
9	R05県値	* 13.81	○ 17.14	* 35.24	○ 37.86	* 34.01	* 10.19	* 137.65	* 11.96	50.03
	得点	6	↑ 7	↑ 6	↑ 7	↑ 6	↑ 6	6	6	↑ C
10	R05県値	* 16.36	○ 18.55	* 38.33	○ 40.58	* 40.46	● 9.72	● 145.58	* 14.34	55.65
	得点	7	↑ 8	↑ 7	8	7	↑ 6	6	7	C
11	R05県値	○ 19.23	○ 19.71	* 39.94	○ 43.19	○ 46.45	* 9.40	* 153.86	* 16.19	60.41
	得点	↑ 8	↑ 8	↑ 7	↑ 9	↑ 8	↑ 7	↑ 7	↑ 7	↑ C

22

## 調査結果の概要（中学校男女）

良好：上・反・20m

課題：握・立・ボ

男

歳		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	持久走 (秒)	合計点 (点)
12	R05県値	● 24.33	* 22.23	* 40.88	* 47.83	* 65.61	● 8.62	● 181.04	● 17.82	● 444.91	33.34
	得点	3	↑ 5	↑ 5	↑ 5	↑ 5	↑ 3	↑ 3	↑ 3	↑ 4	↑ C
13	R05県値	● 30.22	○ 25.65	○ 44.55	○ 50.85	○ 80.43	* 7.98	● 198.89	● 20.78	* 404.09	41.85
	得点	↑ 4	↑ 6	↑ 6	↑ 6	↑ 6	↑ 5	↑ 4	↑ 4	↑ 5	↑ C
14	R05県値	● 34.62	○ 27.68	* 48.12	○ 53.79	* 87.57	* 7.59	● 211.92	● 22.98	● 384.92	48.21
	得点	↑ 5	7	↑ 6	↑ 7	↑ 6	↑ 6	↑ 5	5	↑ 5	↑ C

女

歳		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	持久走 (秒)	合計点 (点)
12	R05県値	● 21.22	○ 18.82	* 43.63	○ 43.80	○ 46.28	* 9.18	* 160.26	● 11.17	* 317.17	41.82
	得点	↑ 4	↑ 6	5	6	6	↑ 5	↑ 5	4	5	↑ B
13	R05県値	* 23.49	○ 21.29	○ 46.72	○ 45.42	○ 52.99	○ 8.94	* 164.97	* 12.63	* 301.95	47.31
	得点	5	↑ 7	↑ 6	↑ 7	↑ 6	↑ 6	5	5	5	↑ B
14	R05県値	* 25.07	○ 22.83	* 49.28	○ 46.50	○ 54.25	* 8.81	* 169.51	● 13.65	● 298.81	50.79
	得点	6	7	↑ 6	7	7	↑ 6	↑ 6	5	5	C

23

# 調査結果の概要（高等学校男女）

良好：上・反・長

課題：握・ポ

男

歳		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	持久走 (秒)	合計点 (点)
15	R05県値	● 36.49	○ 27.78	* 47.01	○ 54.86	* 83.10	* 7.58	● 216.94	● 23.53	● 421.08	48.57
	得点	↑ 5	7	6	7	6	6	5	↑ 5	4	<b>C</b>
16	R05県値	* 38.72	○ 29.68	○ 49.70	○ 57.45	* 87.97	* 7.37	* 223.72	* 25.19	● 405.57	53.16
	得点	↑ 6	7	7	↑ 8	6	↑ 6	↑ 6	↑ 6	↑ 5	↑ <b>B</b>
17	R05県値	* 39.87	○ 30.46	○ 51.81	○ 57.74	* 88.81	* 7.36	* 226.45	* 26.03	● 420.35	54.80
	得点	6	8	↑ 7	8	↑ 6	6	6	6	4	<b>B</b>

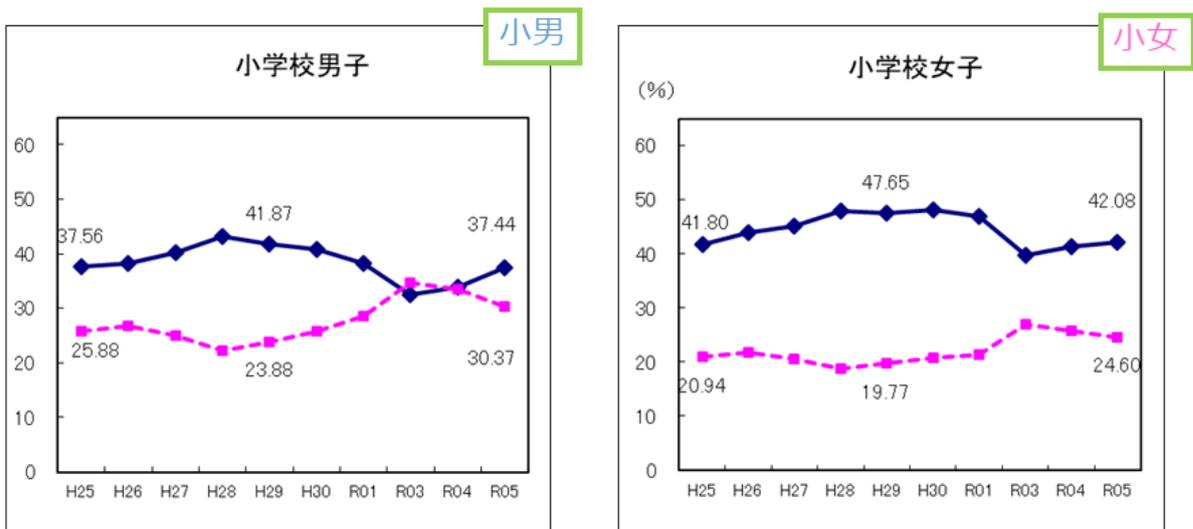
女

歳		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (点)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	持久走 (秒)	合計点 (点)
15	R05県値	● 24.91	○ 22.34	* 48.34	○ 47.47	* 50.71	* 8.96	* 168.77	● 13.41	● 361.89	49.45
	得点	5	7	↑ 6	7	6	↑ 6	↑ 6	5	3	<b>C</b>
16	R05県値	* 25.72	○ 23.67	* 49.90	○ 48.52	* 52.05	* 8.94	* 169.96	* 14.11	● 365.82	51.57
	得点	↑ 6	↑ 8	↑ 6	↑ 8	↑ 6	↑ 6	↑ 6	↑ 6	3	↑ <b>C</b>
17	R05県値	* 25.94	○ 24.39	○ 50.20	○ 48.02	* 48.69	* 8.96	* 169.47	* 14.33	● 344.93	51.63
	得点	6	8	7	8	6	6	6	6	3	<b>C</b>

24

## 総合評価における10年間の推移

—◆— A+B段階 (体力水準が高いグループ)  
 - - - ■ - - - D+E段階 (体力水準が低いグループ)

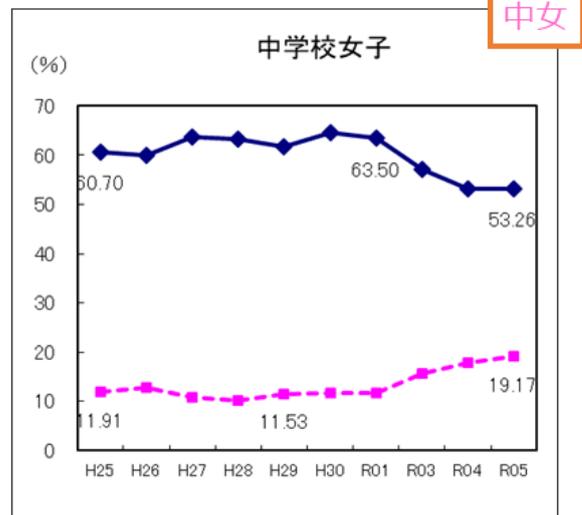
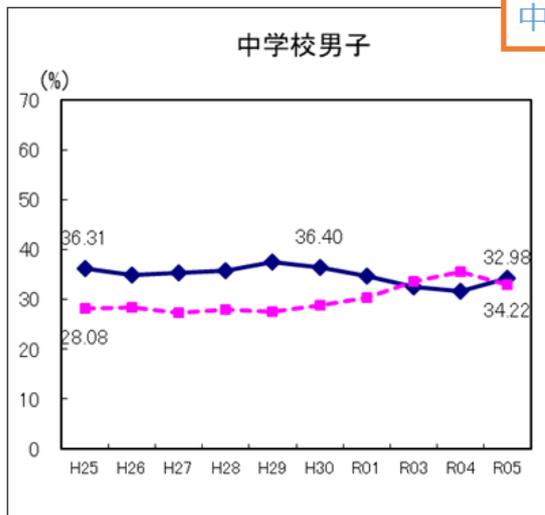


**小学校は回復傾向が続く**

25

## 総合評価における10年間の推移

—◆— A+B段階 (体力水準が高いグループ)  
 - - - ■ - - - D+E段階 (体力水準が低いグループ)

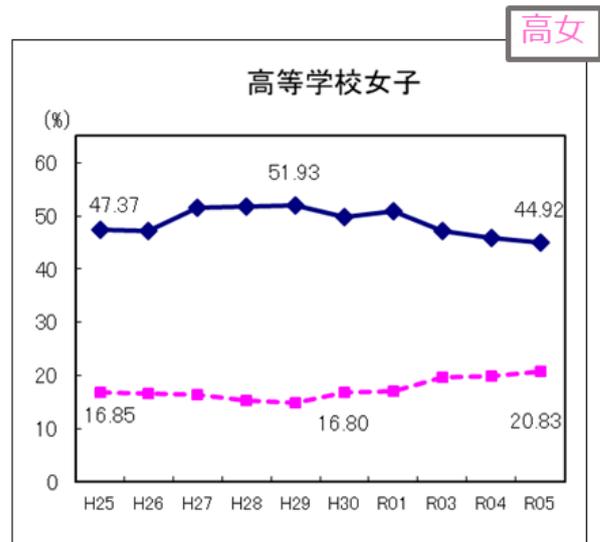
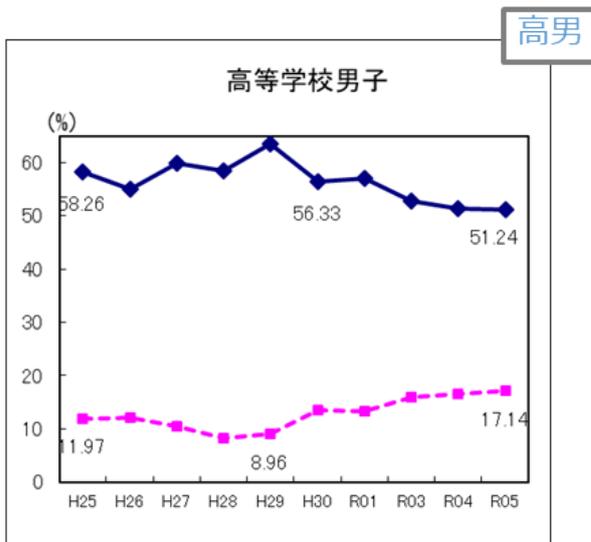


**中学校は、  
男子が回復傾向、女子は下位層が増加**

26

## 総合評価における10年間の推移

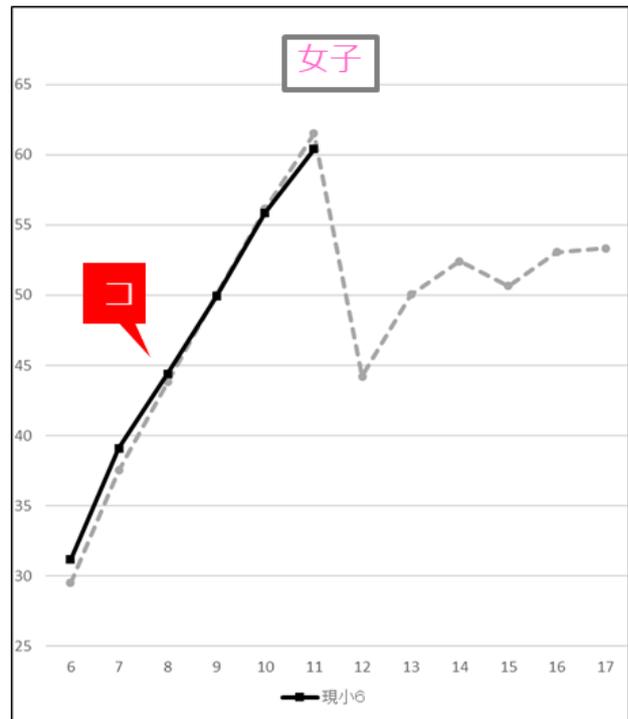
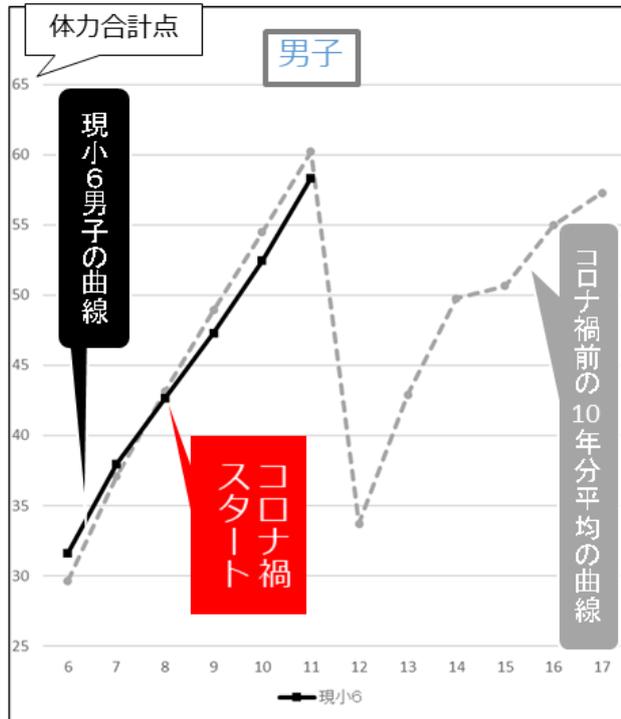
—◆— A+B段階 (体力水準が高いグループ)  
 - - - ■ - - - D+E段階 (体力水準が低いグループ)



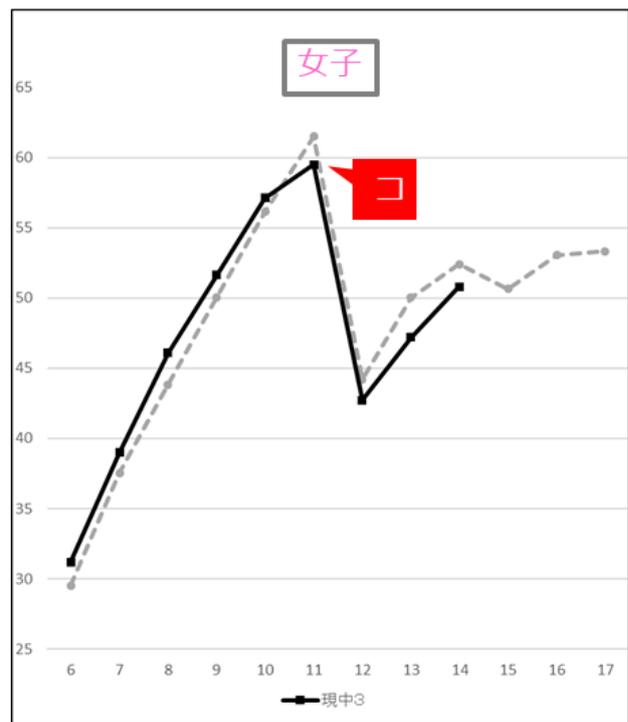
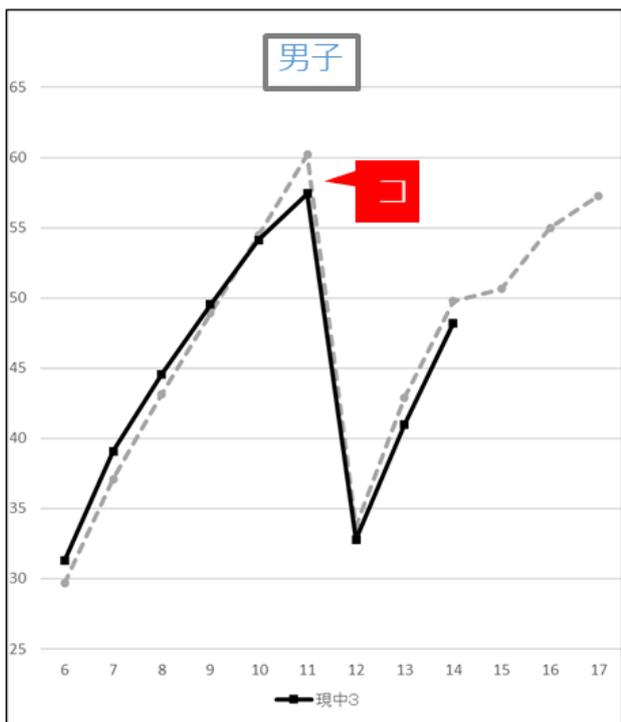
**高校は、男女ともに下位層がわずかに増加**

27

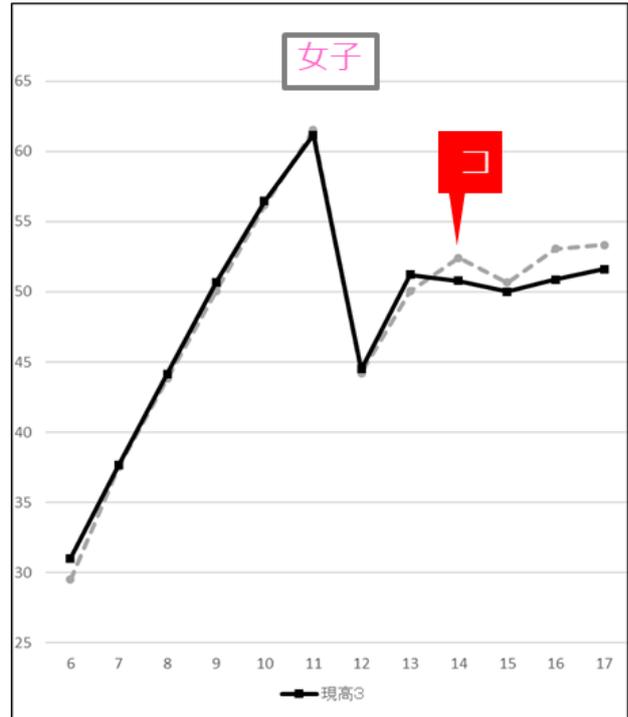
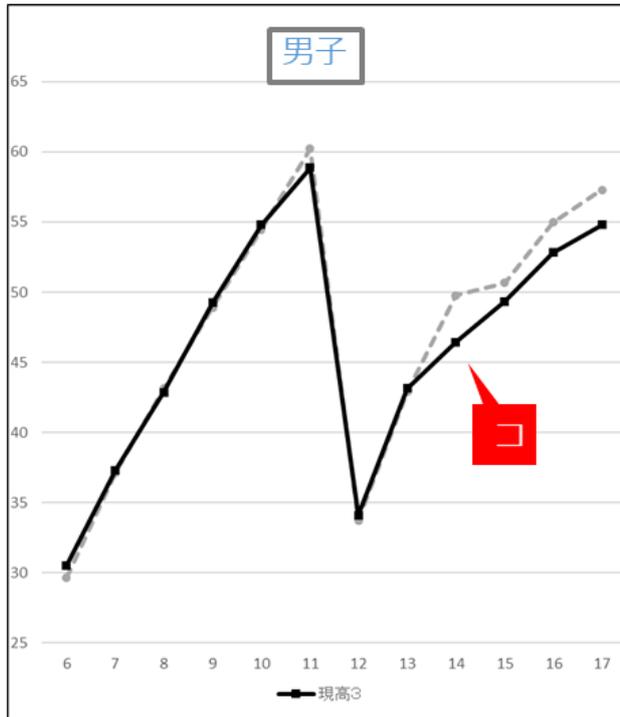
# コロナ禍による 子どもたちの体力向上への負のインパクト



# コロナ禍による 子どもたちの体力向上への負のインパクト



# コロナ禍による 子どもたちの体力向上への負のインパクト

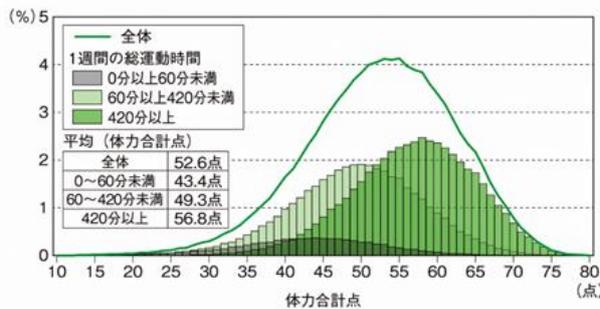


30

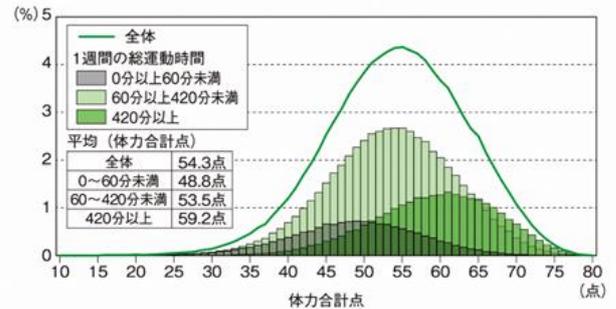
## 運動時間と体力の関係

【図6】 1週間の総運動時間と体力合計点との関連

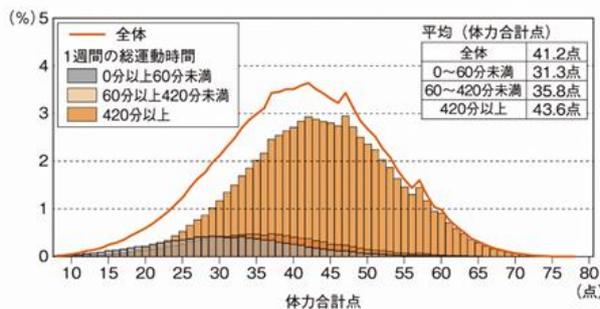
小学校 ● 男子



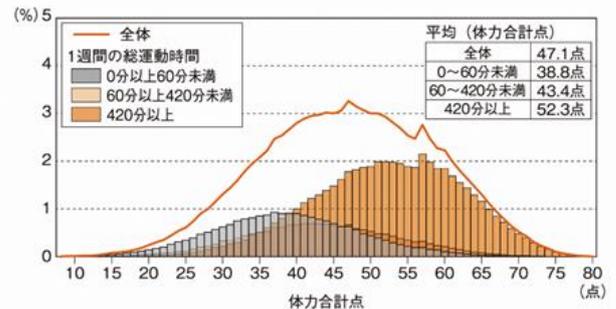
● 女子



中学校 ● 男子

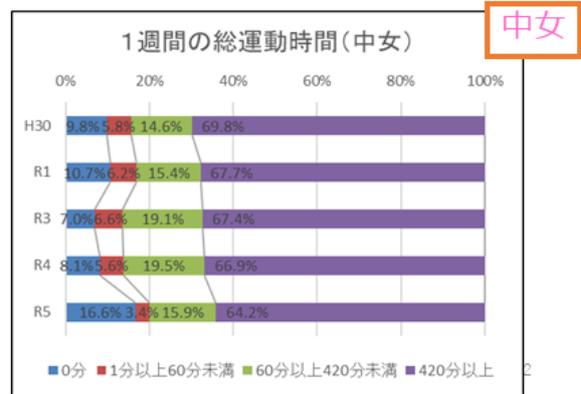
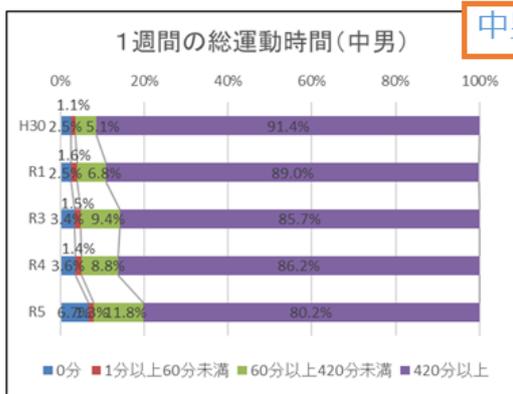
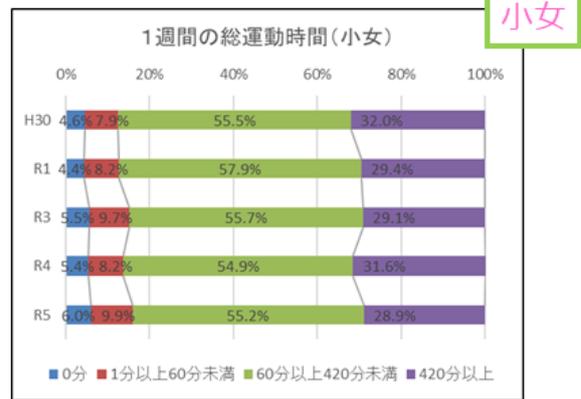
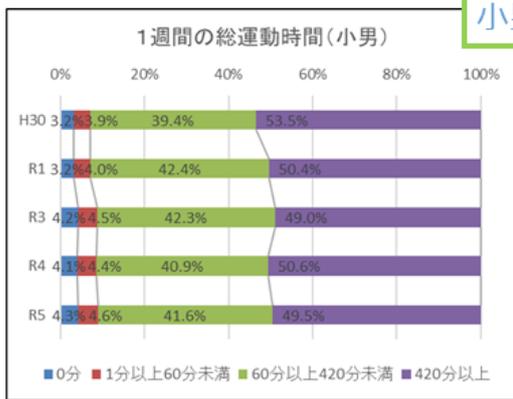


● 女子



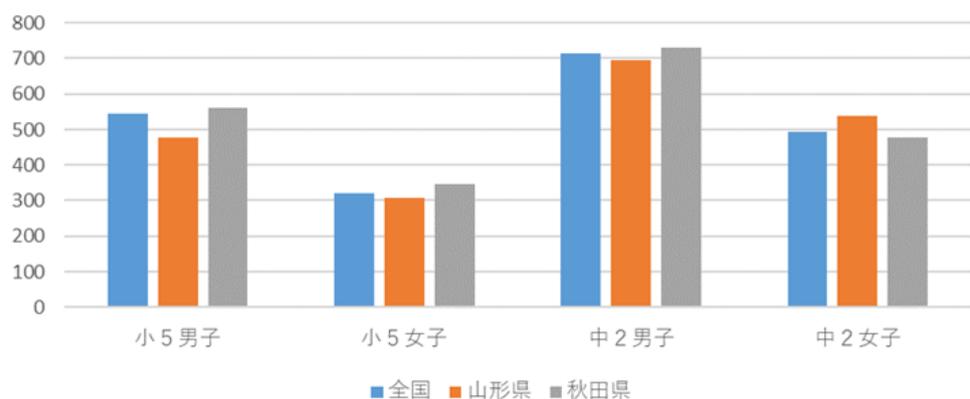
31

# 山形県の運動時間



# 山形県の運動時間

## 一週間の総運動時間(分) ※体育除く



	小5男子	小5女子	中2男子	中2女子
全国	543.20	321.18	714.63	494.35
山形県	478.05	307.03	695.69	538.33
秋田県	561.82	345.12	730.40	477.84

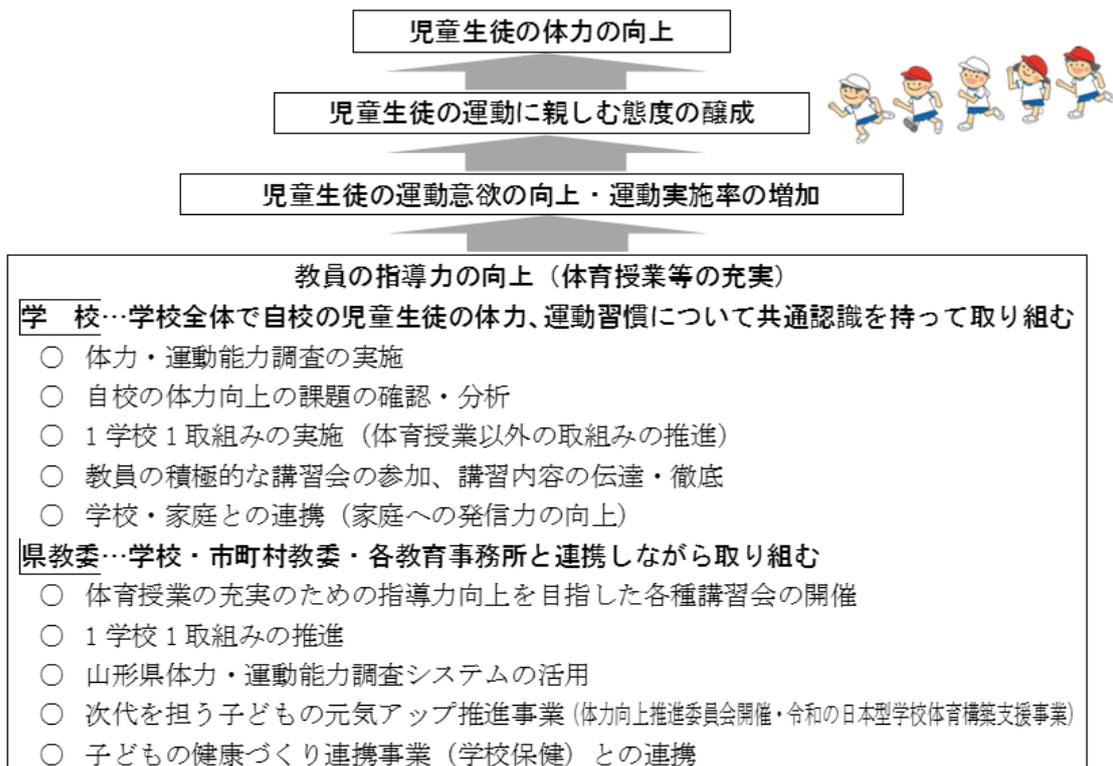
# 山形県教育委員会からのメッセージ

## 昨年引き続き

1. 生涯にわたって運動に親しむ態度の醸成
2. 学校全体で、子どもたちの体力、運動習慣について共通認識を持って取り組む（授業づくり、場づくり、1学校1取り組み）
3. 家庭との連携

34

## 山形県の児童生徒の体力向上対策のイメージ



35

# スポーツ庁分析・県体力向上推進委員会指摘

## 意識したい視点

### 1. “楽しい”体育・保健体育授業の推進

### 2. 体育と保健との一層の関連

36

### 1. “楽しい”体育・保健体育授業の推進

スポーツ庁



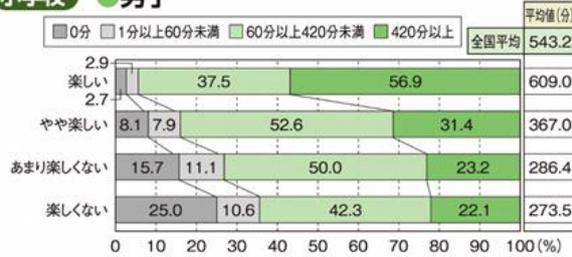
“「楽しい」と「運動やスポーツが好き」と「卒業後も運動したい」には強い相関があり、また、「楽しい」と感じる児童生徒は「運動時間」が長く、「総合評価、体力合計点」が高いことを示す結果となった。”

37

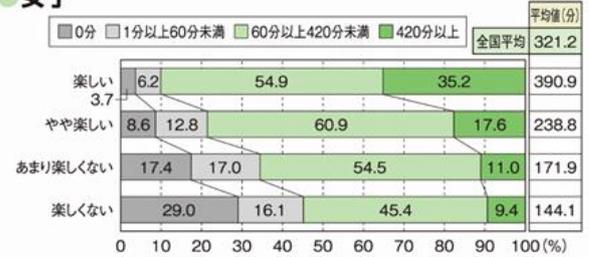
# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

〔図11〕 「体育・保健体育の授業が楽しい」×「1週間の総運動時間」

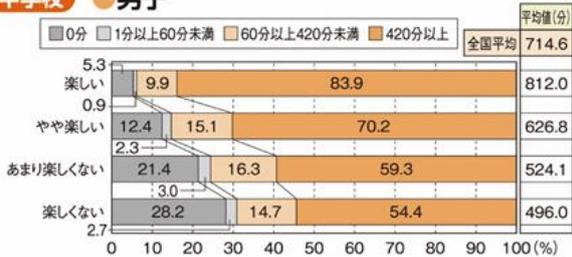
## 小学校 ● 男子



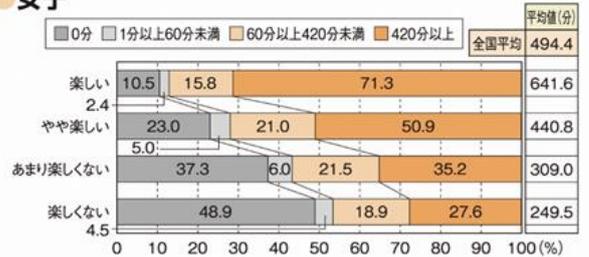
## ● 女子



## 中学校 ● 男子



## ● 女子

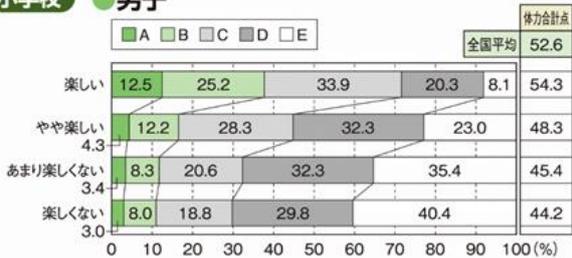


38

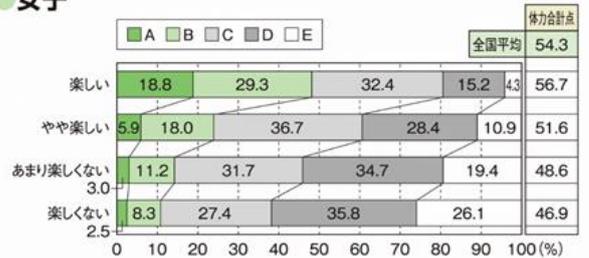
# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

〔図12〕 「体育・保健体育の授業が楽しい」×「総合評価と体力合計点」

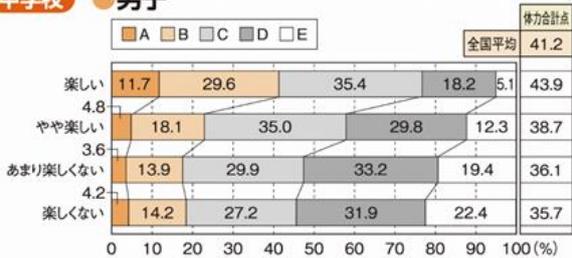
## 小学校 ● 男子



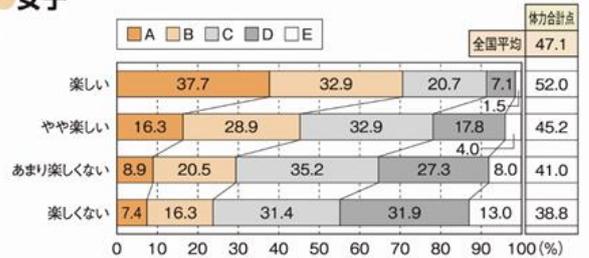
## ● 女子



## 中学校 ● 男子



## ● 女子

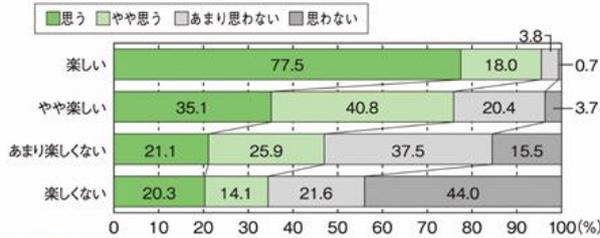


39

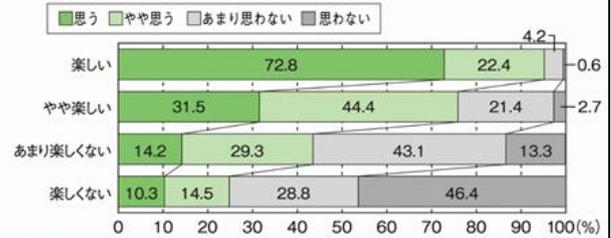
# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

〔図13〕 「体育・保健体育の授業が楽しい」×「卒業後も、運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う」

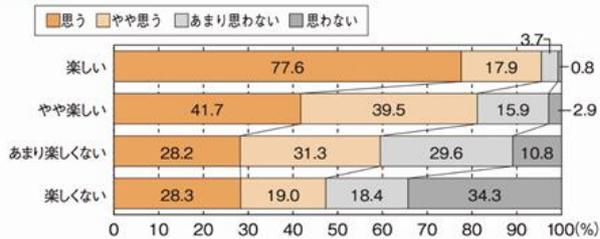
小学校 ●男子



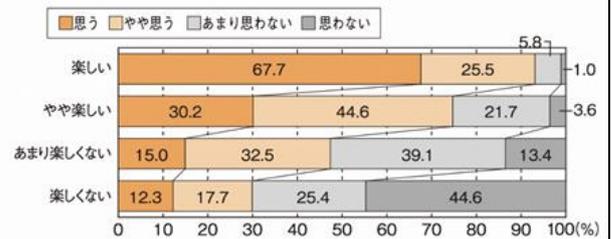
●女子



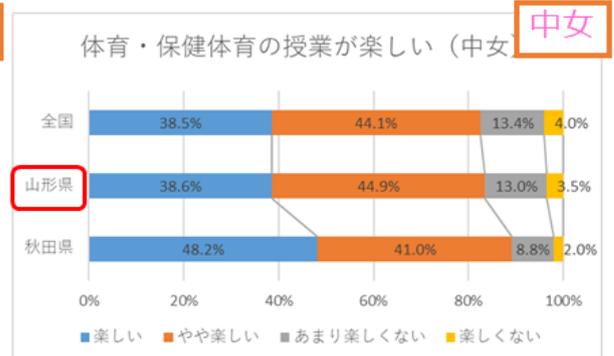
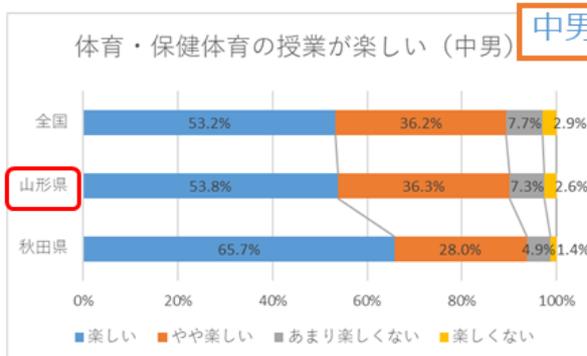
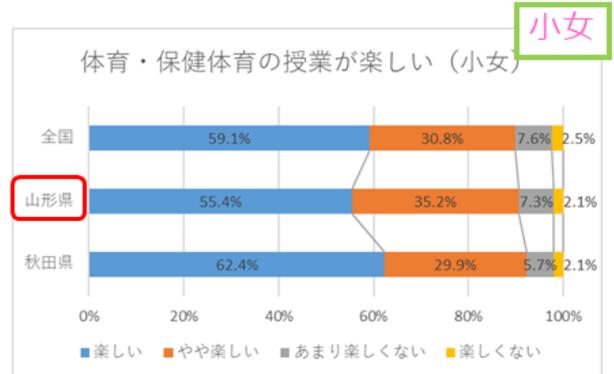
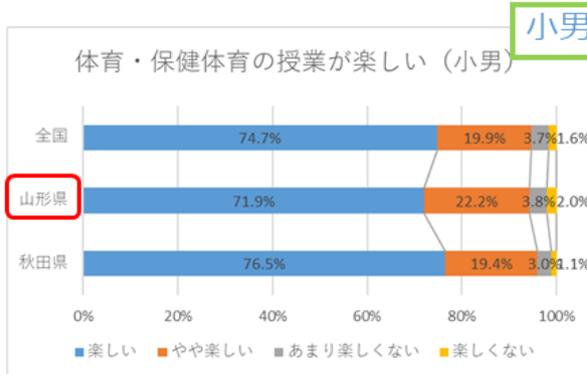
中学校 ●男子



●女子



# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

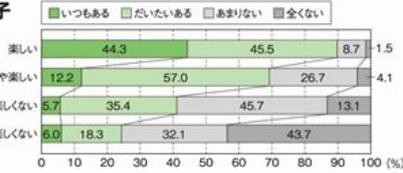


# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

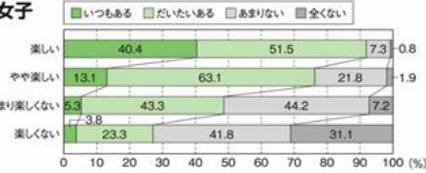
小学校

質問9 「体育の授業は楽しい」 × 質問11 「体育の授業で目標を意識して学習することで『できたり、わかったり』することがある」

●男子



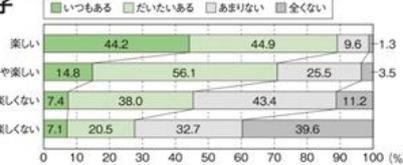
●女子



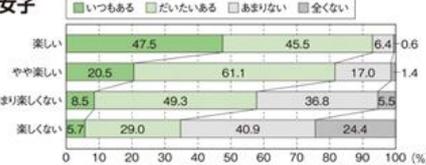
質問9 「体育の授業は楽しい」

× 質問12 「体育の授業での友達との助け合い、教え合いを行うことで『できたり、わかったり』することがある」

●男子



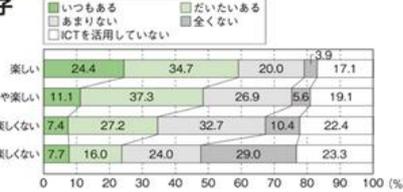
●女子



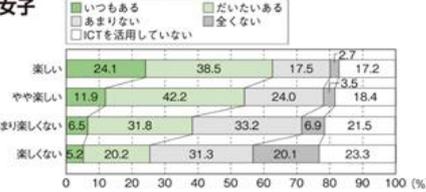
質問9 「体育の授業は楽しい」

× 質問13 「体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで『できたり、わかったり』することがある」

●男子



●女子



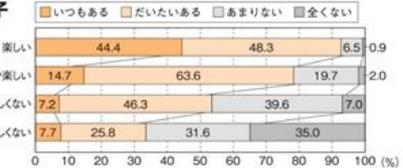
42

# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

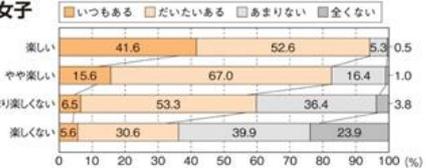
中学校

質問9 「保健体育の授業は楽しい」 × 質問11 「保健体育の授業で目標を意識して学習することで『できたり、わかったり』することがある」

●男子



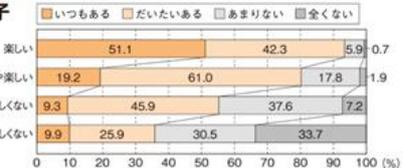
●女子



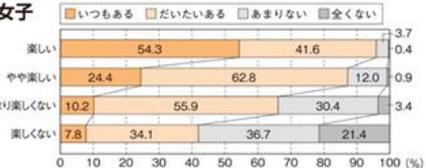
質問9 「保健体育の授業は楽しい」

× 質問12 「保健体育の授業で友達との助け合い、教え合いを行うことで『できたり、わかったり』することがある」

●男子



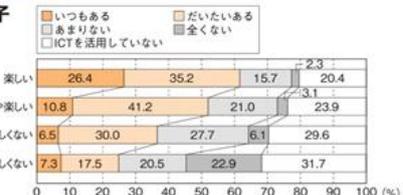
●女子



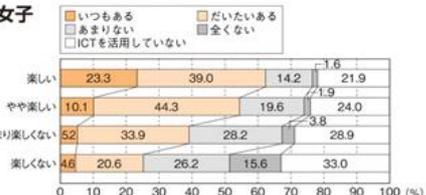
質問9 「保健体育の授業は楽しい」

× 質問13 「保健体育の授業でのタブレットなどのICTを使って学習することで『できたり、わかったり』することがある」

●男子



●女子



43

# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

できる、わかる

⇒楽しい

⇒もっとやりたい

できない、わからない

⇒楽しい

⇒もっとやりたい

44

# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

できる、わかる

⇒楽しい

⇒もっとやりたい

↑  
運動・技能の

「できる」だけに着目せず

例えば

- ・ 仲間にアドバイスできた
- ・ 仲間の良い動きに拍手ができた
- ・ 準備や片付けが手際よくできた

45

## 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

できる、わかる



⇒楽しい

⇒もっとやりたい

子どもたちに求める  
知識及び運動・技能が  
発達段階や目的に合っているか  
を再確認

46

## 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

例) 小学校 第5学年及び第6学年

A 体づくり運動

体の動きを高める運動

動きを持続する能力を高める運動

として

同じ距離で  
タイムを競う持久走をすること

47

# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

例) 小学校 第5学年及び第6学年

A 体づくり運動

体の動きを高める運動

動きを持続する能力を高める運動

学習指導要領解説の例示では

無理のない速さで  
5～6分程度の持久走をすること

48

# 1.“楽しい”体育・保健体育授業の推進

同じ距離で  
タイムを競う持久  
走をすること

見直し

無理のない速さで  
5～6分程度の持  
久走をすること

競走なので、

- ゴールが遅いと「できなかった」と感じる。
- 自分のペースで走れないので苦しい。

楽しくない

競走ではないので、

- ゆっくりでも走り切れれば「できた」と感じる。
- 心地よいペースを自分で考えながら走ることができる。

楽しい

※持久走（小 体づくり運動） ≠ 長距離走（中・高 陸上競技）

49

## 生徒が望む「よい授業」の4条件※高田4原則

- (1) 運動が爽快であった時  
精一杯運動させてくれる授業
- (2) 技能の伸長が認知された時  
ワザや力を伸ばしてくれる授業
- (3) 仲間と明るい交友が体験された時  
友人と仲よくさせてくれる授業
- (4) 知的探究心が満足された時  
発見させてくれる授業

高田典衛「実践による体育授業研究」大修館書店、1979.<sup>50</sup>10

## 2. 体育と保健との一層の関連

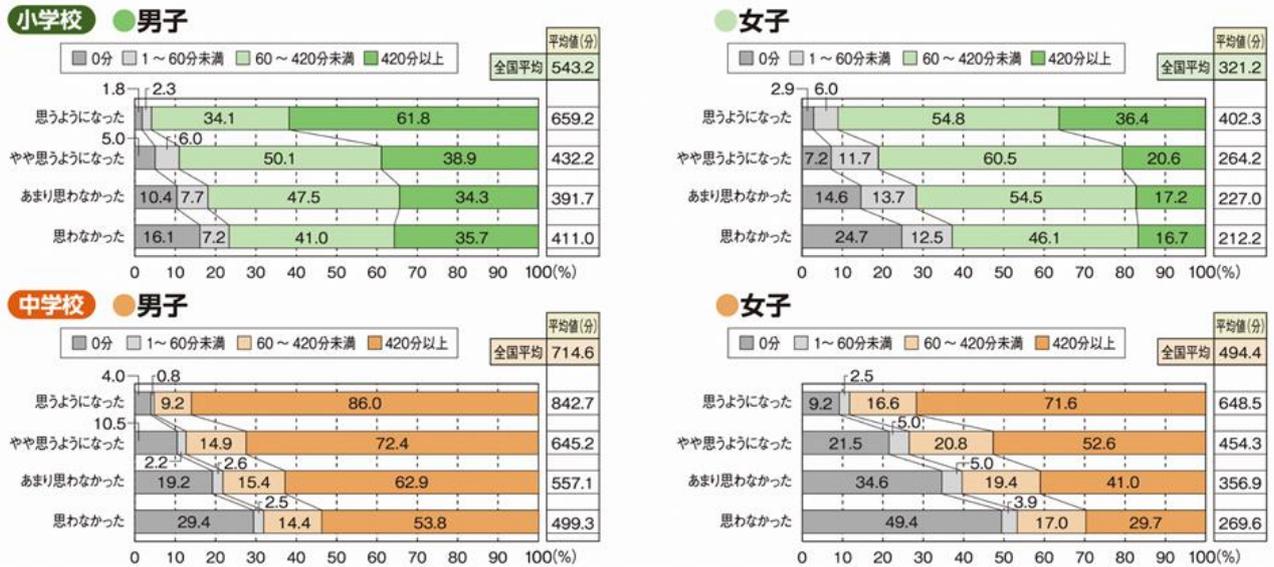
スポーツ庁



“「保健を学習してもっと運動したいと思うようになった」と回答した児童生徒は、日頃の運動時間が長く、高い体力を有し、将来の運動の継続にも前向きであることがわかった。”

## 2. 体育と保健との一層の関連

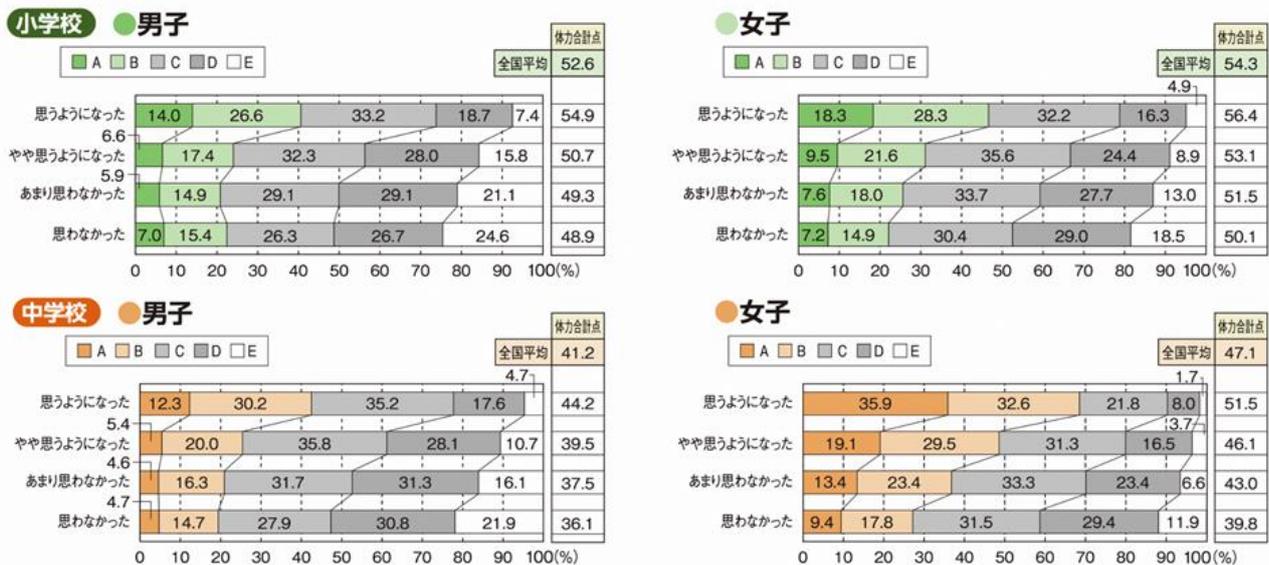
〔図14〕 「保健を学習して、もっと運動をしようと思うようになった」×「1週間の総運動時間」



52

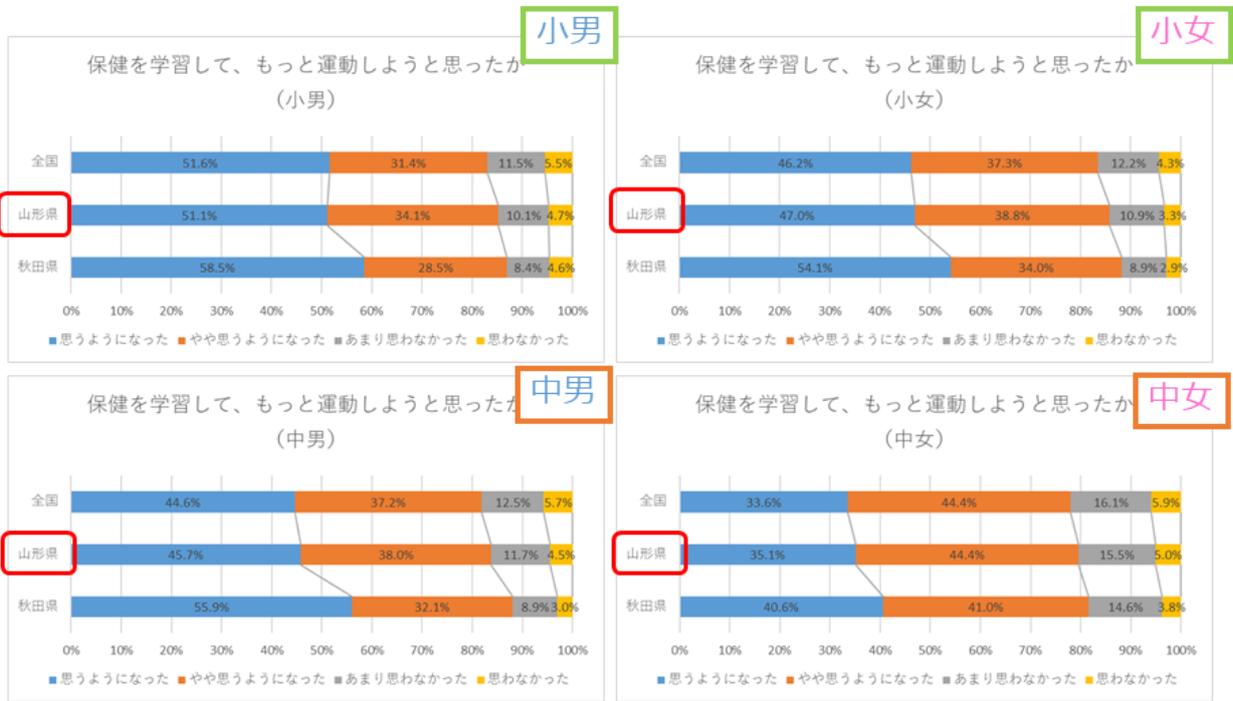
## 2. 体育と保健との一層の関連

〔図15〕 「保健を学習して、もっと運動をしようと思うようになった」×「総合評価と体力合計点」

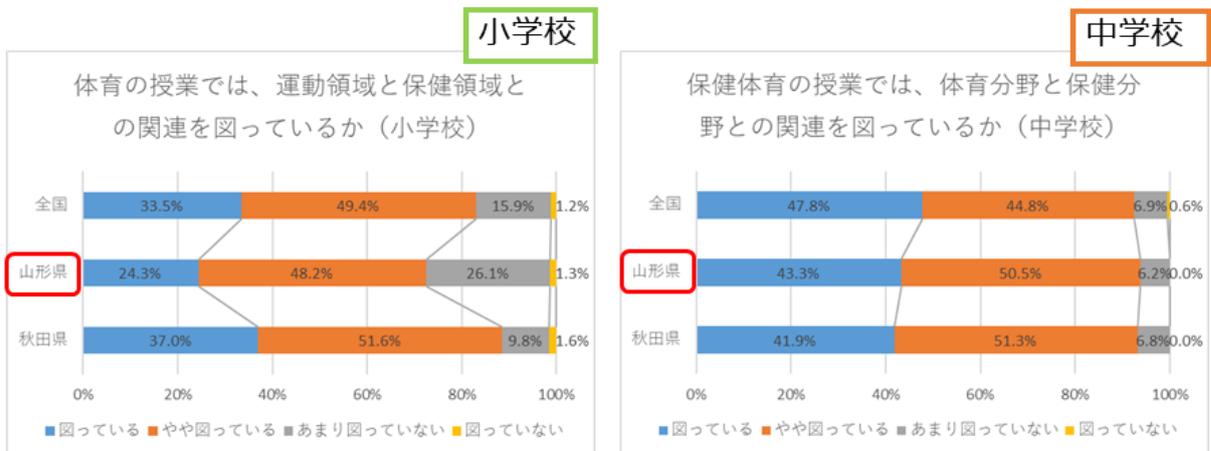


53

## 2. 体育と保健との一層の関連

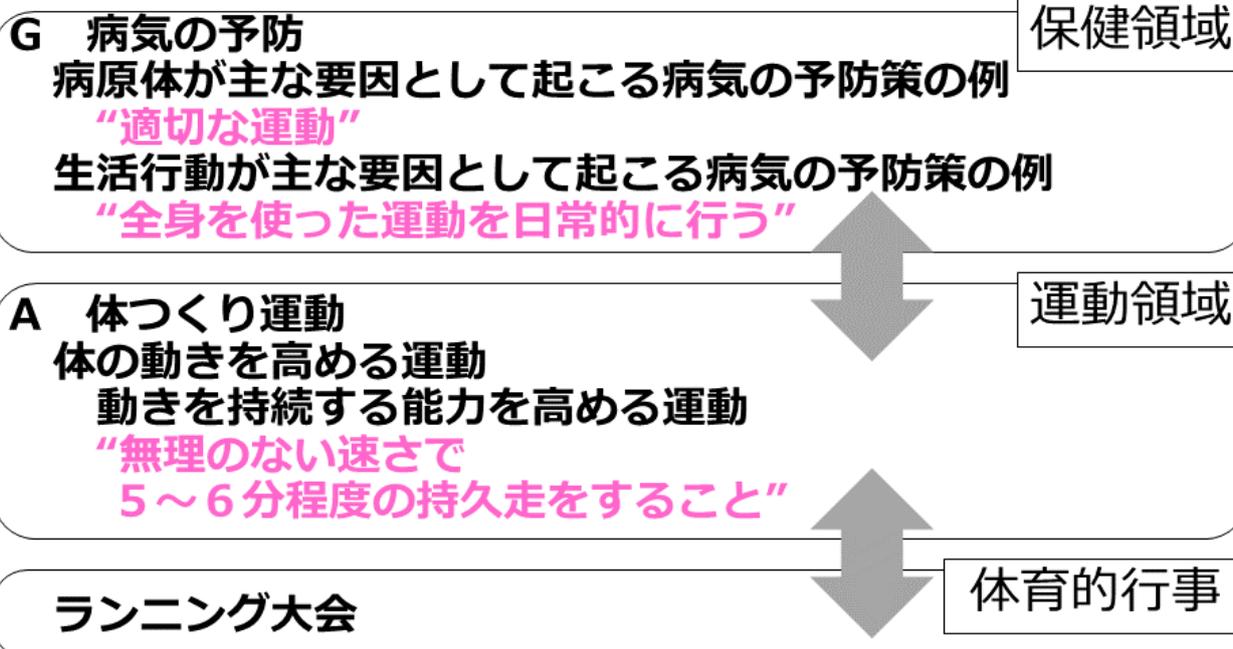


## 2. 体育と保健との一層の関連



## 2. 体育と保健との一層の関連

例) 小学校 第5学年及び第6学年



56

## 学習指導要領では

高等学校学習指導要領（平成30年告示）第1章総則第1款2(3) ※小・中・特支でも同じような記載あり

(3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科・科目及び総合的な探究の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 ※中でも同じような記載あり

なお、高等学校にあつては、教科担任制を原則としているために、体育・健康に関する指導が保健体育科担当の教師に任されてしまうおそれがある。しかし、体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行われるべきものであり、その効果を上げるためには、保健体育科担当の教師だけでなく、全教職員の理解と協力が得られるよう、学校の実態に応じて指導体制の工夫改善に努めるなど、組織的に進めていくことが大切である。

57

## アイスブレイク

- ① 自己紹介。
- ② ファシリテーター1名、記録係1名を決める。発表は他の先生で。
- ③ ファシリテーターが進行、テーマ「**アフターコロナの子どもたちの様子**」について自由に話し合う。ネットや様々な資料を参考にしてもOK。
- ④ 記録係は、話し合ったことを「スライド1」に入力。箇条書きOK。
- ⑤ 時間は10分間。ファシリテーターが時間管理。
- ⑥ 後ほど、いくつかのグループが3分間で発表。

実際の話し合いで作成されたスライド（抜粋）

〔小学校〕

グループ	#	令和5年度体力向上対策会議 グループ協議発表資料	スライド1
<h2>アフターコロナの子どもたちの様子</h2> <ul style="list-style-type: none"><li>・外遊びが増えてきている様子。マスクをして遊んでいる方が少なくなりつつある。夏場は運動制限も見られ、その時期は運動面では苦しい面もあった。（置賜）</li><li>・冬場の遊べる場所が限られている。（置賜）</li><li>・運動する機会は増えつつある。ただし、これまでの傾向なのか、コロナの影響なのか、運動中のけがは若干気になる。相撲も復活し、様子を見ながら取り組み数も増やしていく予定。（最上）</li><li>・初等部、中等部合わせて体育の活動をしている。場所を分けながらスタンプラリーなどをしながら運動する機会を設定している。縦割りの活動を生かしながら、全員を巻き込むように活動を進めている。（最上）</li><li>・運動する機会は増えつつある。体育館の制限も徐々になくなり、コロナ前と同等の活動ができています。マスクはまだつけているお子さんが想定以上にいる。けがについてはコロナ前と変わらず、一定数はいる。（庄内）立川</li><li>・運動する機会は増えつつあるが、体育館や遊び場の制限はまだある。マスクもまだつけている子が多い。（庄内）</li></ul>			

## アフターコロナの子どもたちの様子

- ・運動量の二極化が見られる・・・クラブ化の影響
- ・クラブ化に対応できず学校を休む子も多い
- ・部活は任意、クラブ化との差が大きい
- ・前ほどガツガツ運動に取り組む子が減少

### (授業)

- ・マスクを外さない生徒が依然いる
- ・ダンス...などの表現に抵抗
- ・意外なケガが増えた
- ・諦めが早い...「もうできないからいいや」という生徒が増えた(忍耐力など)

### (行事)

- ・簡素化したものがうまくいったものもあった
- 一方で簡素化の流れが忍耐力の衰退につながる？

### (その他)

- ・歩く生徒が減った → スクールバスが増えた ○日々歩く習慣大事だった
- ・人間関係が取れない生徒が増えた。→タブレットでつながる力が高まった

## アフターコロナの子どもたちの様子

- ・スマートフォンの使用率増えている。(注意されても使用)
- ・部活動の応援の仕方、挨拶は以前と比べてできない。
- ・生徒同士の会話が減っている。
- ・積極的に友人同士で話をしているように見えない。
- ・出席停止になるのが慣れて、簡単に休む生徒がいる。
- ・グループ活動での対話が成り立たない。(話し合いになっていない)
- ・大会や行事等の中止で達成感が得られていない。
- ・部活動の加入状況は、A校、運動部7割、任意加入は来年度から
- ・B校は、任意加入 800人の半分、未加入も多い。昨年度から任意
- ・未加入の生徒が、放課後に残ってスマートフォンを使用
- ・スマートフォンの取り扱い  
(B校→教室、コモンホールなどの限られた場所、休み時間等使用、学校行事)  
(A校は使用制限ない、授業も使用可)  
(C校は、朝登校から、放課後までロッカー管理)

## グループ協議

- ① 記録係が「スライド2」を画面共有し、話し合いの記録を入力する。
- ② 「**体育授業単元名または体育的行事名**」、「**対象**」を話し合い、設定する。
- ③ その「**①楽しい理由**」を話し合い、まとめる。
- ④ その「**②楽しくない理由**」を話し合い、まとめる。
- ⑤ 「**③より多くの児童生徒にとって楽しくなる工夫**」を話し合い、立案する。  
各校で行なっている取り組みを紹介し合ったり、これまでにないような自由な発想でアイデアを出してもらったりして、リラックスして進めてください。
- ⑥ 時間は30分間。ファシリテーターが時間管理。
- ⑦ 休憩はグループごと適宜。
- ⑧ 後ほど、いくつかのグループが5分間で発表。

実際の話し合いで作成されたスライド（抜粋）

〔小学校〕

グループ	#	令和5年度体力向上対策会議 グループ協議発表資料	スライド2
【体育授業単元名または体育的行事名】 <b>マラソン記録会</b>		【対象】 ①・中・高 ( 5 ) 学年	
<b>①楽しい理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 勝ちたい、記録を狙っている</li> <li>● タイムが縮まっている</li> <li>● 走り切れた達成感</li> <li>● マラソン週間での頑張りカードなどで目標を持って取り組めた</li> </ul>		<b>②楽しくない理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 疲れる、キツイ、つらい、長い</li> <li>● おいて行かれる、周回遅れ、恥ずかしい、みんなに励まされて逆に嫌だ</li> <li>● どうせあの子には勝てない</li> <li>● タイムが縮まらない</li> <li>● 体重の増加で体が重い</li> <li>● 校庭を周回するので、景色が変わらない</li> </ul>	
<b>③より多くの児童生徒にとって楽しくなる工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「持久力を高める」という目標から「楽しく、心地よく」を大切にしたい。</li> <li>● 「記録をねらう、競走するコース」と「ウォーキング・ジョギングコース」を子どもが選択して個別最適に。</li> <li>● 「適度な運動で心地よい」と感じる（保健との関連）、「昨年度は歩いたけど、今年は走ってみよう」という子も現れる？</li> <li>● 走るコースを自分たちで考えるor選択する。</li> <li>● 保健と関連させ、マラソン（運動）は健康にいいことを意識させる。</li> </ul>			

<p>【体育授業単元名 または 体育的行事名】</p> <h2 style="text-align: center;">器械運動（マット・跳び箱など）</h2>	<p>【対象】</p> <p style="text-align: center;">( 小・中・高 ) 学年</p>
<p><b>①楽しい理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● できなかった技ができるようになった。</li> <li>● 成長が感じやすい。</li> <li>● コツをつかむと、成長しやすい。</li> <li>● 個人での探求や技を連続させることができる。</li> <li>● 仲間に支えられて、できるようになる。</li> </ul>	<p><b>②楽しくない理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● できる・できないにこだわってしまう。</li> <li>● 友達と比べてしまう。</li> <li>● 恐怖心。</li> <li>● 練習が地味。</li> <li>● 動きが単純になりがち。</li> <li>● 技能面が全面に出てきてしまう。 (筋力・体力)</li> </ul>
<p><b>③より多くの児童生徒にとって楽しくなる工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学年を越えた授業での教え合いを行う。(高学年から低学年へのアドバイスなど)</li> <li>● スモールステップを用意して、「小さなできた」を増やす。</li> <li>● 音楽に合わせて、技や演技を行い、個人やグループで発表。</li> <li>● ICTの活用(ポイントの確認・客観的に成長を見る)</li> <li>● 運動会に関連させて、子どもたちの教え合いを行う。</li> <li>● 学習カードを工夫し、自分にあった技を選んで完成させる形にした。(自己選択ができる)</li> </ul> <p>(ICTの活用方法) ○お手本動画 ○自分の動きの撮影※運動量を減らさないように ○子どもたち同士が振り返りを見れるようにする ○スマートウォッチ</p>	

[中学校]

<p>【体育授業単元名 または 体育的行事名】</p> <h2 style="text-align: center;">体育祭</h2>	<p>【対象】</p> <p style="text-align: center;">( 小・中・高 ) 学年</p>
<p><b>①楽しい理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全校で動ける、みんなで何かができる</li> <li>● クラスでの活動、他学年での交流</li> <li>● レクリエーション的要素</li> <li>● 旗の作成→運動の苦手な人の活躍の場</li> <li>● 記録、勝敗</li> </ul>	<p><b>②楽しくない理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運動が苦手→迷惑をかける</li> <li>● 運動が得意な人からの圧</li> <li>● 運動している姿を見られたくない</li> <li>● 注目を浴びたくない</li> <li>● 本気出すのがカッコ悪いという風潮</li> <li>● 前髪が崩れるのが嫌</li> </ul>
<p><b>③より多くの児童生徒にとって楽しくなる工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● みんなが楽しめる→体育祭からレクリエーション大会に</li> <li>● 難しくない、分かりやすい競技</li> <li>● 生涯スポーツ種目 例：ポッチャ</li> <li>● 応援してもらえる楽しさ</li> <li>● 先生方も一緒に</li> <li>● 生徒も審判をして</li> <li>● 見る楽しさ、する楽しさ、支える楽しさを担当ごとに感じるように</li> </ul>	

グループ	#	令和5年度体力向上対策会議 グループ協議発表資料	スライド2
【体育授業単元名 または 体育的行事名】 球技 ゴール型 バasketボール		【対象】 中学校 ( 1. 2 ) 学年	
<b>①楽しい理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールできたとき(得点できたとき)</li> <li>・ゲームが楽しそう</li> <li>・戦術を立ててその戦術がうまくいった時</li> <li>・シュートを打った本数と入った本数から成功率を出して、数値化するとうれしそう</li> <li>・チームの仲間が決めたシュートを一緒に喜んでいる</li> </ul>		<b>②楽しくない理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疲れる(運動が苦手な子にとっては)</li> <li>・技能が難しいため、思うようにできない</li> <li>・ミスしたとき(パスがとれない)</li> <li>・個人の技能レベルが低く、ついていけない</li> <li>・ミスしたくない→プレーに関わらない</li> <li>・戦術を立ててもそこまでつながらない</li> <li>・クラスの雰囲気→ミスをするのが怖くなる、消極的</li> </ul>	
<b>③より多くの児童生徒にとって楽しくなる工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの雰囲気づくり→みんなで励まし合って、ミスをカバーしあおう</li> <li>・経験者だけが楽しむ授業ではなく、周りの子たちにも声をかけたり、ルールの工夫のできる工夫を。</li> <li>・ボールを全員が触るように。</li> <li>・バスケの経験がある生徒がパスを回してあげる</li> <li>・シュートの本数を数値化して目標を持たせる</li> <li>・チームの人数を工夫(アウトナンバーなど)→マークされていない人を意図的につくる→少ない人数で編成することでボールに関わる機会を増加させる</li> </ul>			

〔高等学校〕

グループ	#	令和5年度体力向上対策会議 グループ協議発表資料	スライド2
【体育授業単元名 または 体育的行事名】 クラスマッチ		【対象】 高校	
<b>①楽しい理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学年関係なく交流できる</li> <li>● 競争に慣れていないがクラスで勝とうという雰囲気ができ、楽しさに繋がる</li> <li>● 普段見られない姿を見ることができる</li> <li>● 仲間と一緒に活動できる</li> <li>● 得意なもので仲間(チーム)と目標に向かって高められる</li> <li>● クラスの団結力を高められる</li> </ul>		<b>②楽しくない理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 得意な種目でないと、楽しめない(競技の制限がある)</li> <li>● 非接触競技があるといいが・・・</li> <li>● 部活動生徒が審判など運営に回ることもあるため、競技に集中できない</li> <li>● 全員のスタートラインがそろっているといいが、力に偏りがあるため</li> <li>● 仲間と競技に出るので、楽しめない</li> <li>● 負けへのプレッシャー</li> <li>● 不得意生徒が楽しめない</li> </ul>	
<b>③より多くの児童生徒にとって楽しくなる工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長縄や風船を運ぶなど、体づくり運動の延長にある種目だと楽しめるのではないか</li> <li>● クラスの筋力を数値化して競い合う</li> <li>● ローカルルールで緩和して行う(全員が楽しめるルールにする)</li> <li>● 応援する側への働きかけ</li> <li>● 制限が加えられると楽しめないなので、競技者だけでなくも活躍できる場を作る</li> <li>● 綱引きや囲碁・将棋・オセロなど運動が得意でない生徒が楽しめる種目があるといい</li> </ul>			

### 3 山形県教育委員会の今後の取組みについて

県内全ての小・中学校・高等学校・市町村教育委員会・各教育事務所の連携を進めながら、児童生徒の運動習慣の充実と体力向上を図っていく。

- (1) 体力向上推進委員会を開催し、今回の調査結果・分析について、有識者から助言をいただく。
- (2) 地区ごとに体力向上対策会議を開催し、本県の課題を各学校に共有する。
- (3) 各学校はこれを受け、体育授業の工夫改善や、学校全体の体力向上に関する「1学校1取組み」等の取組み、家庭と連携した取組みの推進を行う。

#### 【体育授業の充実と学校課題に応じた効果的な「1学校1取組み」の推進】

※1学校1取組み:各学校が主体的に行う体力づくりに向けた取組み

- ア. 運動の特性に触れ、運動の楽しさを味わうことができる授業づくりを促し、運動の日常化を図る
- イ. 地域の実態や発達段階に合わせて、体力向上につながる授業づくりと学校の教育活動全体で行う体力づくりの実践を促す
- ウ. 「体づくり運動」の充実を図る
- エ. 「体育理論」の充実を図る（中学校・高等学校）

#### 【各種研修会の実施】

- ア. 「令和6年度体育・保健体育指導力向上研修」受講者より、小・中・高等学校の教員対象に体育実技指導者講習会を実施する（小学校は教育事務所単位で行う）  
→開催予定日令和6年7月2、3日
- イ. 小・中学校教員等を対象に楽しい体育授業づくり指導者講習会を実施する
- ウ. 中・高の保健体育科教員を対象に体育授業指導力向上研修会を実施する
- エ. 運動指導者研修会を実施する

#### 【山形県体力・運動能力調査システムの活用】

- ア. 各学校が児童生徒の体力や運動習慣等を把握するために、小学校、中学校、高等学校において全学年・全項目を入力する調査とする。（令和4年度より）
- イ. 児童生徒が自分の体力を把握したり、学校と家庭が子どもの体力向上について連携を図る資料としたりするために、各学校がシステムから各個人の体力調査結果の個人カードを作成するよう推進する。

#### 【次代を担う子供の元気アップ推進事業】

##### ◎子どもの体力向上支援委員会による体力向上の取組みの推進

- ア. 小・中・高等学校合同の体力向上対策会議を実施する
- イ. 効果的な取り組み事例の共有化（「楽しく体を動かそう」DVDの活用促進を含）を進める。

##### ◎令和の日本型学校体育構築支援事業の実施

- ア. 武道指導推進モデル校4校を指定する。指定校に対し、武道に係る地域スポーツ指導者等を派遣し武道領域の体育授業の充実と体育担当教員の資質向上を目指す。
- イ. 安全で効果的な小・中学校体育授業の充実に向けて外部指導者を派遣する。

#### 【子どもの健康づくり連携事業（学校保健）との連携】

- ア. 学校における健康課題解決に向けた協議会を開催し、児童生徒の発育や疾病状況を把握するとともに、運動の習慣化はじめ生活習慣の改善等について検討を行うことで、体力向上の促進を図る。

## 4 令和6年度山形県児童生徒の体力向上対策

### 1 児童生徒にとっての体力とは

「体力は、人間の発達・成長を支え、人として創造的な活動をするために必要不可欠なものである。したがって、体力は、人が知性を磨き、知力を働かせて活動をしていく源である。また、体力は、生活をする上での気力の源でもあり、体力・知力・気力が一体となって、人としての活動が行われていく。このように、体力は「生きる力」の極めて重要な要素となるものである。」 子どもの体力向上のための総合的な方策について（答申）平成14年9月30日中央教育審議会

### 2 山形県の体力の現状

- 小学校、中学校は回復傾向。高校は横ばい。
- 生活スタイルが変化したこともあり、コロナ禍前の水準には至っていない。

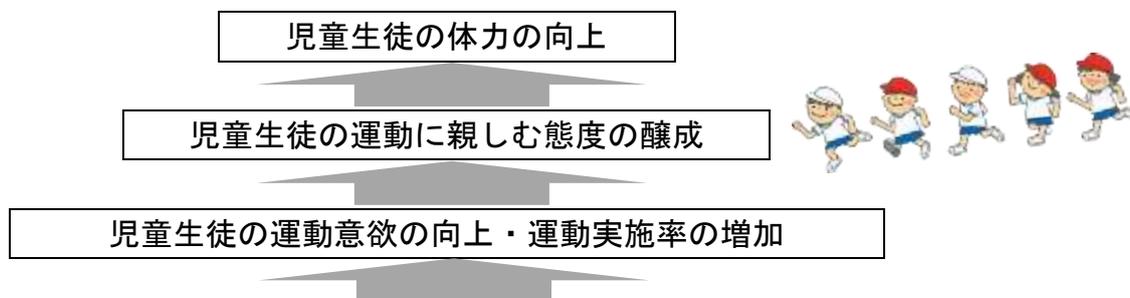
### 3 山形県の運動習慣の現状

● ほぼ変化なし		※かつこ内は前年度
小学5年生のスポーツ実施率（1日60分以上）	39.4%	（41.1%）
スポーツや運動が「嫌い」「やや嫌い」である中学2年生	15.8%	（15.8%）
1週間のうち全く運動をしない児童生徒（小1～高3）	11.3%	（11.1%）

### 4 体力向上推進委員会（有識者）での指摘

- (1) “楽しい” 体育・保健体育授業の推進 → 運動意欲の向上
- (2) 体育・運動と保健・健康の関連を図った指導の充実 → 健康意識の向上
- 運動習慣の改善

### 5 山形県の児童生徒の体力向上対策のイメージ



#### 教員の指導力の向上（体育授業等の充実）

**学 校**…学校全体で自校の児童生徒の体力、運動習慣について共通認識を持って取り組む

- 体力・運動能力調査の実施
- 自校の体力向上の課題の確認・分析
- 1学校1取組みの実施（体育授業以外の取組みの推進）
- 教員の積極的な講習会の参加、講習内容の伝達・徹底
- 学校・家庭との連携（家庭への発信力の向上）

**県教委**…学校・市町村教委・各教育事務所と連携しながら取り組む

- 体育授業の充実のための指導力向上を目指した各種講習会の開催
- 1学校1取組みの推進
- 山形県体力・運動能力調査システムの活用
- 次代を担う子どもの元気アップ推進事業（体力向上推進委員会開催・令和の日本型学校体育構築支援事業）
- 子どもの健康づくり連携事業（学校保健）との連携

